

史跡旧奥行臼駅逦所主屋

保存修理工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2019

北海道別海町教育委員会

例 言

1. 本書は、平成 29 年度、平成 30 年度に保存修理工事に伴う埋蔵文化財発掘調査として実施した史跡旧奥行臼駅通所主屋の発掘調査報告書である。
2. 本書の作成・執筆は、石渡一人が行った。
3. 調査指導・各種同定については次の方々に依頼した。
調査指導 田才 雅彦（文化財サポート）
動物遺体同定 小林 真樹（帯広百年記念館）
陶磁器類同定 関根 達人（弘前大学）、佐藤 雄生（松前町教育委員会）
4. 発掘調査及び整理作業には次の方々の指導、助言、協力を得た。記して感謝の意を表する次第です。（敬称略、順不同）
文化庁記念物課 五島昌也、北海道教育委員会文化財・博物館課 藤原秀樹、村本周三、根室管内学芸職員研究会、羅臼町教育委員会 天方博章、標津町教育委員会 小野哲也、中標津町教育委員会 山宮克彦、村田一貴、根室市教育委員会 猪熊樹人、厚岸町教育委員会 熊崎農夫博、公益財団法人北海道埋蔵文化財センター 長沼孝、帯広百年記念館 北沢実、帯広市 笹島香織、厚岸町 中野清、別海町 役場建設水道部 小島実、別海町 渡辺昇、麻郷地麻美、高橋智美、沼田明美
5. 調査に関する諸記録及び出土遺物については、すべて別海町教育委員会が保管する。

凡 例

1. 挿図の縮尺は、不統一の部分もあるのですべてスケールを示した。
2. 挿図中の方角は磁北を示している。
3. 挿図の断面及び遺跡測量図の等高線の数字は標高を示している。

目 次

例言	i
凡例	i
挿図目次	ii
表目次	iii
図版目次	iii
1. 調査に至る経緯	1
2. 史跡の位置と環境	2
(1) 周辺の地形と地質	2
(2) 史跡の位置	2
(3) 歴史的背景	5
3. 調査の概要と経過	7
(1) 調査の概要	7
(2) 調査の目的	8
(3) 調査の経過	8
4. 調査区の設定と調査方法	9
(1) 調査区の設定	9
(2) 調査の方法	9
(3) 整理の方法	9
5. 調査結果	9
(1) 測量調査	9
(2) 基本的な層序	10
(3) 発掘調査	16
北棟	16
中央棟	21
南棟	24
(4) 遺物	31
6. 調査のまとめ	45
報告書抄録	54

挿 図 目 次

第 1 図 史跡旧奥行白駒遞所の位置	3
第 2 図 史跡旧奥行白駒遞所周辺の地形図	4
第 3 図 調査区設定図	11
第 4 図 史跡旧奥行白駒遞所主屋解体後実測図	12
第 5 図 発掘調査区	13
第 6 図 遺構配置図	14
第 7 図 遺構実測図	15
第 8 図 北棟遺構配置図	17
第 9 図 北棟遺構実測図	18

第 10 図	北棟礎石地業検出状況（礎石番号：137-172）	20
第 11 図	北棟礎石地業検出状況（礎石番号：177・178）	20
第 12 図	北棟柱穴 7 検出状況	20
第 13 図	北棟柱穴 8 検出状況	20
第 14 図	北棟柱穴 9・10・11 検出状況	20
第 15 図	北棟旧便槽跡検出状況	20
第 16 図	中央棟遺構配置図	22
第 17 図	中央棟実測図	23
第 18 図	南棟遺構配置図	25
第 19 図	南棟実測図	27
第 20 図	南棟礎石地業検出状況（礎石番号：88・87・86・85）	29
第 21 図	南棟礎石地業検出状況（礎石番号：62・63・64・65）	29
第 22 図	南棟表玄関	30
第 23 図	南棟裏玄関	31
第 24 図	出土遺物実測図	33

表 目 次

第 1 表	測量調査礎石計測一覧	34
第 2 表	北棟礎石地業計測一覧	37
第 3 表	北棟検出遺構一覧	38
第 4 表	中央棟礎石地業計測一覧	39
第 5 表	中央棟検出遺構一覧	39
第 6 表	南棟礎石地業計測一覧	40
第 7 表	南棟検出遺構一覧	41
第 8 表	出土遺物一覧	42

図 版 目 次

図版 1	1. 調査前の状況（北棟ジャッキアップ前・南から）	50
	2. 北棟礎石地業 148（西から）	
	3. 北棟礎石地業 118（南から）	
	4. 北棟礎石地業 135 根石堆積状況（西から）	
	5. 北棟礎石地業 135（西から）	
図版 2	1. 北棟旧便槽跡（北から）	51
	2. 中央棟礎石地業 113・土坑 3（西から）	
	3. 中央棟礎石地業 113 根石（西から）	
	4. 中央棟礎石地業 108・柱穴 12（東から）	
	5. 中央棟礎石地業 130（東から）	
	6. 中央棟礎石地業 107 根石（南から）	
	7. 中央棟土坑 4、柱穴 23（東から）	

	8. 北棟・中央棟調査状況（東から）	
図版 3	1. 南棟礎石地業 55 根石（東から）	52
	2. 南棟礎石地業 55（東から）	
	3. 南棟礎石地業 78（北から）	
	4. 南棟柱穴 24・25・26（南から）	
	5. 南棟表玄関（東から）	
	6. 南棟裏玄関（南から）	
	7. 調査風景北棟（南から）	
	8. 調査風景南棟（北から）	
図版 4	出土遺物	53

1. 調査にいたる経緯

史跡旧奥行臼駅通所は明治43年(1910)に開設した奥行臼駅通所を中核とする史跡である。駅通制度の最盛期である大正時代の部分も現存する主屋は創建時と変わらない場所にあり、当時使われていた調度品や馬小屋が残っている。また、指定地内には交通の要衝であった証である各方面への旧道跡もあり、本駅通所は当時の景観を良く残している貴重な駅通所であり、北海道開拓の具体的な歴史を物語る極めて重要な文化遺産である。

奥行臼駅通所は昭和5年(1930)に廃止後も旅館及び民家として使われ続け、幾度か増改築されながらも、駅通所として使われていた部分は所有者により大切に維持・管理されてきた。そのため文化財としての価値がよく保存された状態のまま、主屋が昭和57年(1982)に所有者により別海町に寄贈され、同年に別海町指定文化財に指定された。翌年より2年間かけて修繕工事を実施し、昭和60年(1985)から一般公開を開始した。平成6年(1994)には、「奥行臼駅通」として北海道指定有形文化財に指定され、主屋のほか、馬小屋2棟、倉庫1棟が附属施設として指定されている。

別海町教育委員会では、平成21年度(2009)より旧奥行臼駅通所についての資料調査・聞き取り調査を行い、社団法人北海道建築士会中標津支部に依頼して建築物調査を実施した。これらの調査結果を『別海町奥行臼駅通所調査報告書(2011)別海町教育委員会』として刊行した。

それら成果を踏まえ、さらに手厚い保護により旧奥行臼駅通所の恒久的保存を目指すこととし、平成23年(2011)1月に旧奥行臼駅通所の史跡への指定を文部大臣に申請し、同年9月21日をもって史跡に指定されるに至った。

別海町では、貴重な文化遺産である史跡旧奥行臼駅通所を将来にわたって適切かつ計画的に保存管理するための指針としての保存管理計画を策定するために、平成24年度(2012)より別海町史跡旧奥行臼駅通所保存管理計画策定委員会を設置した。平成26年(2014)3月に『史跡旧奥行臼駅通所保存管理計画書-平成24・25年度史跡等保存管理計画策定事業報告書(2014)別海町教育委員会』を刊行、今後の保存管理計画の方針が定められた。

平成26年(2014)4月には「別海町史跡旧奥行臼駅通所整備検討委員会」、「同建築専門部会」を設置、保存管理計画に従って予定されている史跡の最も重要な構成要素である駅通所主屋の保存修理工事のための検討協議に入った。平成27年(2015)2月に『史跡旧奥行臼駅通所主屋保存修理工事基本設計(2015)別海町教育委員会』を刊行し、修理工事の方針が定められた。

駅通所主屋の保存修理工事は、平成28年度(2016)～平成30年度(2018)に実施されることとなり、主屋解体後コンクリート基礎を敷設し修理されることとなった。このためコンクリート敷設部分の内容確認調査を平成29年度(2017)、外構工事(雨落)に伴う工事部分を平成30年度(2018)に発掘調査を実施することとした。

2. 史跡の位置と環境

(1) 周辺の地形と地質

別海町は、起伏の大きい台地状の地形を形成し、その殆んどが火山灰の台地である。西から東に向かって多くの河川が流れ、この河川沿いには、河岸段丘が形成されている。川沿いには細長く発達する湿原が見られ、南東部には、風蓮湿原などの低湿地帯がある。このように別海町の地形は、原野、河岸段丘、低地と分けることが出来、次のような自然史の概略によって形成されている。

更新世前期（約 170～50 万年前）には、浜中町北部や風蓮川周辺の地層から貝の化石が産出することから、現在の根室半島と知床半島の間には海が入り込んだことがわかる。現在の風蓮湖から浜中町北部、別海町南部にかけての高さ 10m ほどの低地は、この古別海湾の形状を基礎としている。

更新世中期（約 50～12.5 万年前）は、古別海湾が山地から供給された土砂により埋められ、現在の根室地方の大地の原形が出来上がった。同時期に河岸段丘が形成された。

更新世後期（約 12.5 から 1 万年前）には斜里火山、武佐火山が活発な噴火を繰り返して火山灰を堆積させた。これを覆うように屈斜路カルデラを形成した大規模な噴火が起り、火砕流は現在の別海町まで達した。この時期には、海の後退が数度繰り返され、上中流域での侵食が増大した。西別岳付近を扇頂とする中標津扇状地が形成され、砂礫層が広く堆積した。また、寒冷期に根釧台地では、大地の凍結と融解が繰り返された結果、なだらかな丘陵地が広がる周氷河地形が形成された。

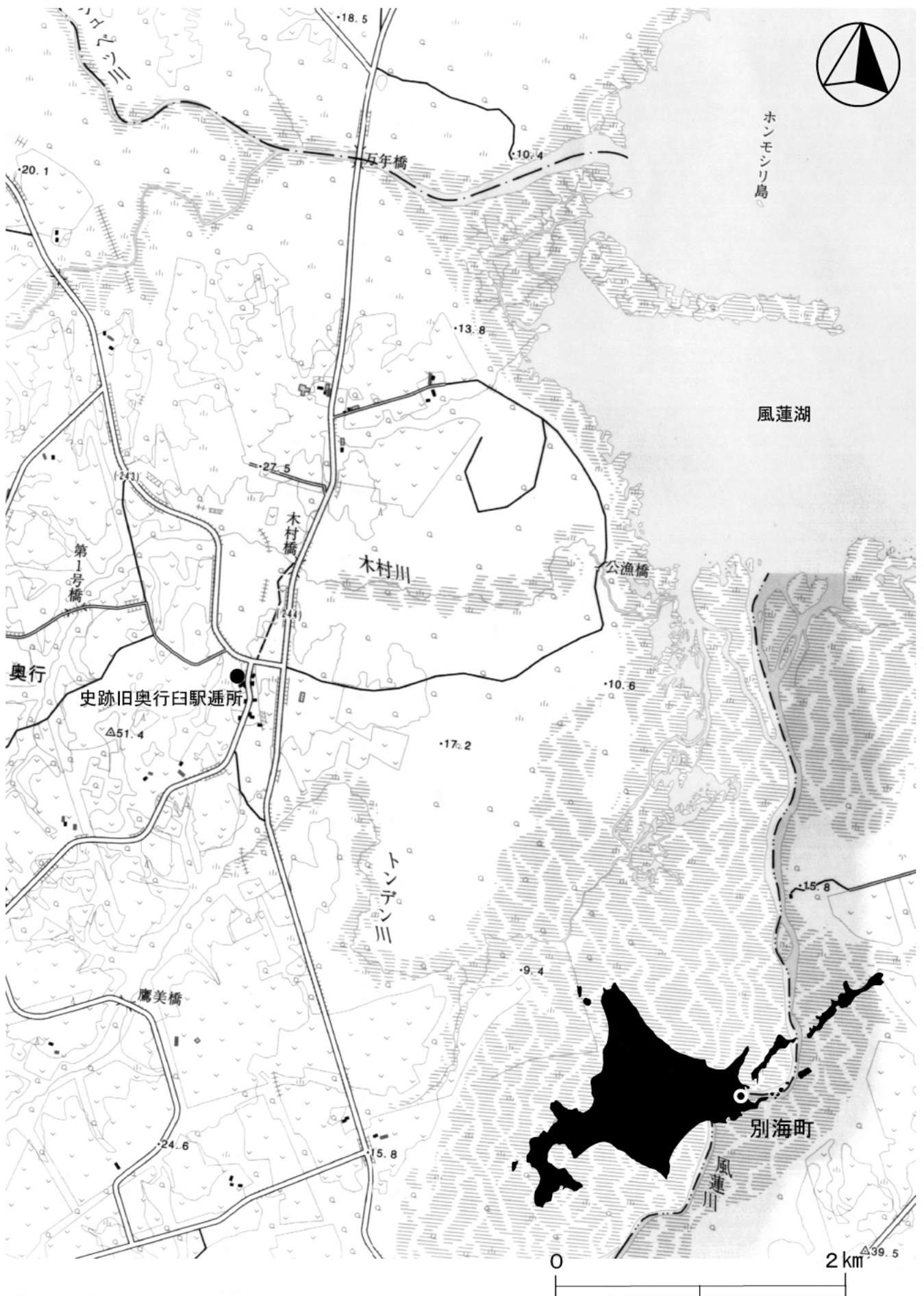
完新世（約 1 万年前～）は、摩周岳などの噴火によって、大量の火山灰が根室地方に降下し、根釧台地の表層を覆い、別海町の地質的な特徴をつくった。川の侵食による河口の土砂の堆積も盛んになり、海流に流された土砂によって野付半島を形成した。別海地方の川沿い、風蓮湖の周辺に見られる湿原もこのときに形成された。

史跡指定地の南側は、戦後牧草地として使用され、東側には昭和 47 年（1972）に建てられた牛舎などの関連施設があった。西側には南から北へと流れる小川があり、国道 243 号線の地下水路を通り木村川に合流している。河岸部は湿潤な土壤環境が形成され、湿性にハンノキを伴う湿性林が分布している。北側は、標高 24.7m の小丘陵があり南西に向かって穏やかに傾斜している。トドマツの植林地となっており、防風・防雪機能があると考えられ、この小丘陵の南側に駅通所主屋が所在する。台地表面は厚さ 2m 以上の摩周系火山灰に覆われている。

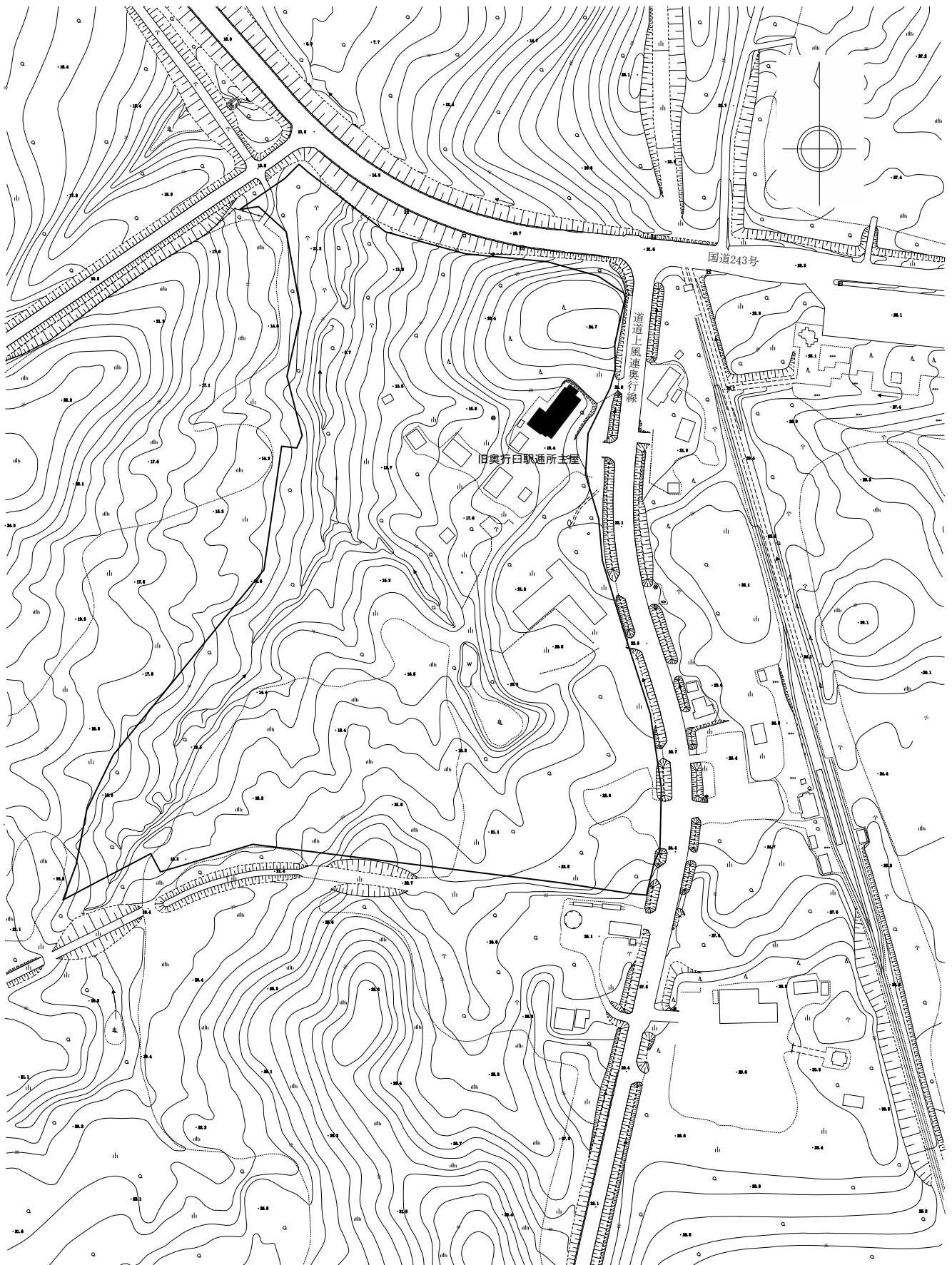
(2) 史跡の位置（第 1 図・第 2 図）

史跡旧奥行白駅通所の所在する別海町は、北海道の東部に位置し、北は標津郡標津町及び中標津町、南は根室市及び厚岸郡浜中町、西は厚岸郡厚岸町及び川上郡標茶町に接し、東は根室海峡に面している。面積 1,319.63 km²、人口約 15,000 人、産業は農業（酪農業）と漁業が主となっている。別海（べつかい）は、アイヌ語地名の「pet kay kay-e・ペツ カイエ＝川 折れる；折れくだける。折る。」で、摩周湖を水源とする町の中央部を流れる西別川の河口付近で川口が曲がり、また、破れるような処から呼ばれたようである。

史跡旧奥行白駅通所は、別海市街から南東に 12.2km の地点に位置し、東約 3 km に風蓮湖がある。駅通所主屋は、中心で北緯 43 度 18 分 47 秒、東経 145 度 14 分 50 秒に位置する。



第1図 史跡旧奥行臼駅通所の位置



第2図 史跡旧奥行臼駅通所周辺の地形図

(3) 歴史的背景

江戸時代以来の宿駅制度は全国的には明治5年(1872)年に廃止されるが、北海道では入植者が利用する独自の駅通制度として存続し、さまざまな制度改正を経ながら、北海道の開拓の進展に連動して発展を遂げた。これまで公用公人の宿駅制度であったものが一転して入植者の利用が主体となり、北海道拓殖計画推進上重要な意義を持つに至った。明治当初、その名称は「本陣」から「旅籠屋並」、そして「旅籠屋」へと目まぐるしく変更されたが、明治5年(1872)に「駅通」に改称された。明治9年(1876)には「駅通規則」が定められている。

三県一局時代には駅通制度はそれぞれの県で独自の展開を見せるが、明治19年(1886)に三県が廃されて北海道庁となると、全道統一的な官設駅通制度が整えられていくことになる。明治28年(1895)に「駅通補助金支給規程」が定められ、経営が厳しい駅通所への補助金支給による駅通所の健全育成化が図られた。さらに同年「官設駅通所取扱規程」が定められ、駅通所の設置には地元郡長を関与させ、駅通取扱人に一定の資格を定めて月額10円以内の手当てを支給することとし、「官設駅通所家屋建築標準図」などにより駅舎の構造、間取り、仕様、取扱い方法が規定された。また駅通所の設置に関しては、土地、駅舎および馬匹等は官費とした。牧場、畑、駅舎の面積は一定とし、馬は10頭以内とし必要に応じて常備することとした。

明治33年(1900)に策定された北海道拓殖十年計画では、駅通所は10年間で120箇所を新設し、必要の無くなった駅通所26箇所が廃止されることとされた。また同年、「官設駅通所取扱規程」は「駅通所規程」へと変わり、取扱人業務の内容も新しくなった。駅通取扱人は、20歳以上の男子で土地や家屋をもち、駅通所経営上必要な資金を有し、人馬車継立営業者宿屋営業者の資格を有していることが必要条件とされた。この規程制定以後、駅通制度は一部改定されるが大きな変化はなく、駅通所の設置方針は官設主義に徹することになる。

内陸部への入植と道路の開削整備推進につれて駅通の任務もその重要性を増して駅通所の設置も増加し、大正期にはその最盛期を迎えた。大正10年(1921)には全道で270箇所の駅通所が存在していた。昭和6年(1931)、「駅通所規程」が「駅通所規則」に全面改訂された。官設物件の制限を敷地千坪以内、田畑3万坪以内、牧場15万坪以内および馬10頭以内とし、駅通取扱人の手当て支給額は月30円以内とした。

その後、地域ごとに入植者の集落化が進み、旅宿や運送業者が芽生え育成されたのに加え、鉄道や軌道の敷設が計られて、駅通制度はその使命が薄れていった。このため北海道庁では昭和17年(1942)に、以後5ヵ年で漸次制度の縮小を図り、駅通制度の廃止方針を立て、昭和22年(1947)3月をもって廃止(千島を除く)されるに至った。

旧奥行臼駅通所は、別海町東部、国道243号線と国道244線が交差する奥行地区にある。

「奥行臼」とは、アイヌ語地名の「ウコイキウシ Ukoiki ushi」が元になった地名で、その意味は「争闘セシ処」であり、「根室ポロモシリ村ノアイヌ厚岸アイヌト戦ヒシ処」であったという。

この奥行臼地区に和人が入り始めたのは、北海道国有未開地処分法が制定された明治30年(1897)以降のことである。住民は薪炭業を営む出稼ぎ寄留民が大勢を占めていたが、その後製炭を業とする者の中から定住者が現れ、奥行臼駅通所が開設された頃には17戸76人が定住するに至った。また明治40年(1907)には奥行臼簡易教育所も開設された。

明治43年(1910)年9月15日、奥行臼駅通所が開設されて駅通業務を開始した。隣の駅通所は別

当賀駅通所（現根室市別当賀）と別海駅通所（現別海町本別海）であり、奥行臼駅通所からはそれぞれ5里15町、3里18町の距離があった。奥行臼駅通所の駅舎は駅通取扱人山崎藤次郎の自宅がそのまま使われ、官馬3頭が配備された。

新潟県出身の山崎藤次郎は、明治23年（1890）に北海道根室町に移住し、薪炭業を営んでいたが、牧畜の適地としての将来性に目を付けて明治36年（1903）に奥行臼に移住した。当初は牛を飼育していたが、明治43年（1910）に牛の価格が暴落したため、所有していた20頭の牛すべてを売却して牝馬と入れ替え、馬の繁殖に専念した。駅通所を開設したのはまさにこの転換点の年であった。藤次郎の繁殖改良した馬は高値で売られるようになり、ますます馬の数が増えたために隣接地を購入し、180万坪の放牧地、20万坪の牧草地、200頭を超える馬を抱える大牧場に成長した。

薪炭業を開始した頃から屋号「山ト」を用い、牧場や後に駅通所から衣替えした旅館にもこの屋号が用いられて山ト牧場、山ト旅館となった。広大な土地と数多くの馬匹を擁する山崎藤次郎は「大和の殿様」とも言われ、昭和15年（1940）に死去するまで、地元の名望家として尊敬を集めていた。

奥行臼の小学校がこの屋号を取って大和小学校となり、駅通所のすぐそばに作られた神社も大和神社となったこともその現れである。

この山崎牧場の発展に合わせるように、駅通所の建物も増築を重ねていった。当初桁行5間であった平屋の自宅兼駅通所は、間もなく6間に増築され、さらに大正9年（1920）には6間半に増築されるとともに、二階建の寄棟が増築された。この寄棟は現存し、駅通制度全盛期の威容を誇っている。

大正14年（1925）に殖民軌道根室線が開通し、さらにより内陸部への入植が進んだため、奥行臼駅通所はその必要性が薄れ、昭和5年（1930）に別当賀駅通所とともに廃止された。駅通所としては廃止されたものの、山崎藤次郎はその駅舎を「山ト旅館」としてそのまま旅館業を続け、むしろ駅通所時代よりも大変な賑わいを見せたという。また、昭和8年（1933）年には省線標津線が開通し、奥行臼にも駅が設置され、駅周辺には多くの建物が作られた。

戦後、薪炭業は姿を消し、奥行地区の産業も現在の別海町の主要産業である酪農業へと転換していった。昭和38年（1963）には奥行臼を始点とする村営軌道が開通したが、自動車の普及に伴わずか8年で廃止された。昭和50年（1975）には大和小学校も廃校となり、さらに平成元年（1989）にはJR標津線も廃止され、旧奥行臼駅通所周辺にあった民家や商店などは現在ほとんど姿を消している。

駅通所廃止後も、山崎藤次郎の子孫が酪農業を代々引き継いでいったため、駅舎のみならず、広大な放牧地や馬小屋、推定樹齢500年と言われる別海町指定文化財「オクユキウスの大櫓」などの樹木や景観、道路跡など、駅通所時代のものが数多く残っている。

奥行臼駅通所が設置された明治43年（1910）に241箇所であった駅通所は以後漸増して大正10年（1921）には制度存続中最多の270箇所を数えるに至った。この年をピークに駅通所の数は減り始め、昭和9年（1934）には200箇所を割り込んだ。すなわち奥行臼駅通所は、北海道第一期拓殖事業計画が実行に移される中、北海道の駅通史における最盛期にあった駅通所であり、その最盛期のたたずまいを、今も残る馬小屋や道の跡などとともに現代にまで伝えてくれている。

3. 調査の概要と経過

(1) 調査の概要

<平成 29 年度>

事業名 史跡旧奥行臼駅通所整備事業
調査番地 北海道野付郡別海町奥行 15 番地 12
調査主体者 別海町教育委員会教育長 伊藤多加志
調査体制 教育部長 中谷隆弘
(調査事務局) 教育部次長 山田一志
生涯学習課文化財担当主査 戸田博史 (史跡整備担当者)
生涯学習課文化財担当 川村遥 (発掘調査補助員)
郷土資料館主幹 石渡一人 (発掘調査担当者)
発掘調査作業員 長谷川裕美子、臼井久美子、徳野翔、渡辺正幸、加藤エミ子、
木村利勝、渡辺隆良、渡辺シゲ子、上月昭彦、土屋昭雄、土屋妙子
整理作業員 仙石史子
発掘調査期間 平成 29 年 6 月 1 日～平成 29 年 7 月 31 日
整理作業期間 平成 29 年 9 月 1 日～平成 30 年 3 月 30 日
調査面積 199 m²
調査結果 検出遺構 礎石地業 130 か所、柱穴 43 基、溝跡 1 か所、土坑 10 基、集石 7 か所、
旧便槽跡 1 か所。
出土遺物 陶磁器類 235 点、金属製品 419 点、木製品 21 点、ガラス製品 128 点、
動物遺体 736 点

<平成 30 年度>

事業名 史跡旧奥行臼駅通所整備事業
調査番地 北海道野付郡別海町奥行 15 番地 12
調査主体者 別海町教育委員会教育長 伊藤多加志
調査体制 教育部長 山田一志
(調査事務局) 教育部次長 石川誠
生涯学習課文化財担当主査 戸田博史 (史跡整備担当者)
生涯学習課文化財担当 川村遥 (発掘調査補助員)
郷土資料館主幹 石渡一人 (発掘調査担当者)
発掘調査作業員 長谷川裕美子、徳野翼、渡辺正幸、加藤エミ子、沼田聡美、
高橋唯人
発掘調査期間 平成 30 年 8 月 20 日～平成 30 年 8 月 31 日
整理作業期間 平成 30 年 9 月 1 日～平成 31 年 3 月 30 日
調査面積 44 m²
調査結果 検出遺構 柱穴 5 基、集石 5 か所。
出土遺物 陶磁器類 31 点、金属製品 11 点、木製品 2 点、ガラス製品 10 点、
動物遺体 11 点

(2) 調査の目的

駅逡所主屋は、明治 36 年 (1903) ～43 年 (1910) 創建時の中央棟、大正 9 年 (1920) 増築の北棟、昭和 16 年 (1941) 増改築の南棟の 3 棟より構成されている。調査は、主屋解体後の礎石等の現況把握のための測量調査の実施。主屋修理に伴うコンクリート基礎敷設、外構工事 (雨落) に伴い掘削される中央棟、北棟、南棟の基礎部分の内容確認のための調査を実施した。また、北棟は、建物の保存状態が良好なことから解体せずジャッキアップを行い修理されることになったため、ジャッキアップの支台を設置する部分の調査も行った。

(3) 調査の経過

<平成 29 年度>

平成 28 年 4 月 15 日 平成 28 年 4 月 15 日付別教生 26 号現状変更許可申請書提出。(同年 5 月 20 日許可)
4 月 14 日 調査担当者による発掘調査用グリッド杭設置作業及びレベル移動。
4 月 17 日 礎石等の現況測量調査開始 (～5 月 12 日・延べ 11 日間)。
5 月 15 日 北棟ジャッキアップ支台部分 (トレンチ 1～5) の発掘調査開始。(～19 日・延べ 4 日間)
5 月 30 日 発掘調査機材の現地搬入
6 月 1 日 発掘調査作業員導入。発掘調査開始、南棟西側より調査開始。
6 月 7 日 別海町文化財保護審議会委員視察
6 月 16 日 別海町史跡旧奥行臼駅逡所整備検討委員会来跡、
6 月 19 日 中央棟・北棟西側調査開始。
6 月 28 日 文化庁記念物課五島昌也氏、北海道教育委員会文化財・博物館課藤原秀樹氏調査指導。
7 月 1 日 町民対象講座・発掘調査見学会開催
7 月 7 日 別海町史跡旧奥行臼駅逡所整備検討委員会委員田才雅彦氏調査指導。
～9 日 根室管内学芸職員研究会研修会「近代建築物の発掘調査」開催。
7 月 10 日 中央棟・南棟東側調査開始
7 月 24 日 別海町史跡旧奥行臼駅逡所整備検討委員会建築専門部会来跡
7 月 28 日 発掘調査機材撤収。現地調査終了。
9 月 5 日 整理作業員導入。遺物水洗・注記・計測・台帳作成。図面整理、素図作成。
～3 月 30 日
1 月 17 日 動物遺体の同定を帯広百年記念館小林真樹氏に依頼。

<平成 30 年度>

5 月 23 日 平成 30 年 5 月 23 日付別教生 240 号現状変更の計画変更書提出。(同年 7 月 24 日許可)
8 月 17 日 発掘調査機材の現地搬入
8 月 20 日 発掘調査作業員導入。発掘調査開始、北棟西側より調査開始。
8 月 23 日 別海町史跡旧奥行臼駅逡所整備検討委員会建築専門部会来跡
8 月 31 日 発掘調査機材撤収。現地調査終了。
9 月 3 日 遺物水洗・注記・計測・台帳作成。図面整理、素図作成。報告書原稿執筆。
～3 月 30 日

4. 調査区の設定と調査方法

(1) 調査区の設定 (第3図)

調査区は、駅通所主屋の長軸 (Dライン) を基点に平行させた 5mメッシュのグリッドを駅通所主屋全体に設定した。西から東へアルファベットで A~E、北から南へ数字で 0~6 とし、グリッドの北西角のポイント名をグリッドの名称とした。

調査区の座標は道道上風蓮奥行線の境界点の成果を使用して求めた。遺跡の中心である D4 グリッドポイントの座標は、 $X=-75862.55$ $Y=77884.25$ (世界測地系平面直角座標系第 XIII系) である。標高は 3 級基準点からレベル移動した。

(2) 調査の方法

測量調査は、平板とレベルを使用し、礎石や関連施設、発掘調査区を縮尺 1/200 で記録した。測量面積は 327 m²である。

発掘調査は、コンクリート基礎敷設部分に杭を設置し、発掘調査区を設定後、ジョレンと移植ゴテによって掘り進めた。調査面積は、平成 29 年度が 199 m²、平成 30 年度が 44 m²、合計 243 m²である。なお、北棟のジャッキアップに伴う土台部分 (T1~5) は、遺構保存のため必要最低限の調査とし、上部の地業形状と根石の確認に留めた。

遺構、遺物の出土状態及び土層断面は基本的に縮尺 1/20 で位置、規模、標高等を方眼紙で記録した。土層断面の色調等は『新版標準土色帖』2003 年度版を使用して記録し、写真記録はデジタルカメラを用いて行った。

(3) 整理の方法

遺物は水洗・注記・計測・接合・台帳作成と一連の作業を行った。図面の作成は、発掘現場での原図を基に、第 2 原図を作成し、デジタルトレースを行った。

5. 調査結果

(1) 測量調査 (第4図・第1表)

駅通所主屋解体後、地表に現れた礎石や関連施設は、第 4 図及び第 1 表のとおりである。礎石は任意に番号を付け、発掘調査により検出した礎石も適時番号を付けた。

礎石は、①自然石玉石、②切石、③コンクリート基礎 A (上 16cm 角・下 25cm 角・高さ 75cm)、④コンクリート基礎 B (上 16cm 角・下 25cm 角・高さ 45cm・面取有)、⑤コンクリート基礎 C (上 13cm 角・下 13cm 角・高さ、65cm・75cm)、⑥コンクリートブロック、⑦コンクリートに種別される。

北棟は、大正 9 年 (1920) に増築された棟である。自然石玉石が 44 個、コンクリート基礎 C が 2 個、コンクリートが 1 個である。北側に便槽がある。大きさは 110×130cm、厚さ 10cm のコンクリート製のもので中央で折れ曲がり、土圧によるものと思われる。小便を便槽に流すものが東側にあり、大きさは 100×80cm、コンクリート製である。凍上により浮き上がっているようである。

中央棟は、明治36年(1903)～明治43年(1910)の創建時から駅通所への用途変更時の時期であるが、増改築により当時の様相は不明である。自然石玉石が28個、切石が2個、コンクリート基礎Aが5個、コンクリート基礎Bが4個、コンクリートブロックが11個である。南東側に広間の炉がある。大きさは90×90cm、コンクリート製で周囲に煉瓦を施している。北側の下部に自然石玉石の礎石番号103が入る。その南東側には長さ3.80m、幅約30cmのコンクリート片がある。

南棟は、昭和16年(1941)に増改築された棟である。自然石玉石が31個、切石が10個、コンクリート基礎Aが39個、コンクリート基礎Bが4個、コンクリートブロックが4個である。東側の表玄関部分は、180×340cm、礎石番号74-73-50-51-52-72-76-75の範囲で、土が硬くしめられている。南側の裏玄関部分は、310×300cm、礎石番号45-22-14-13-12-11-10-9-8-7-23の範囲で盛土されている。盛土上には、煙突があり大きさは40×40cm角で煉瓦製ある。その北側には居間の炉があり、大きさは250×120cm、コンクリート製で周囲に煉瓦を施している。南西には物置部分に室があり、大きさは220×90cmでコンクリート製である。

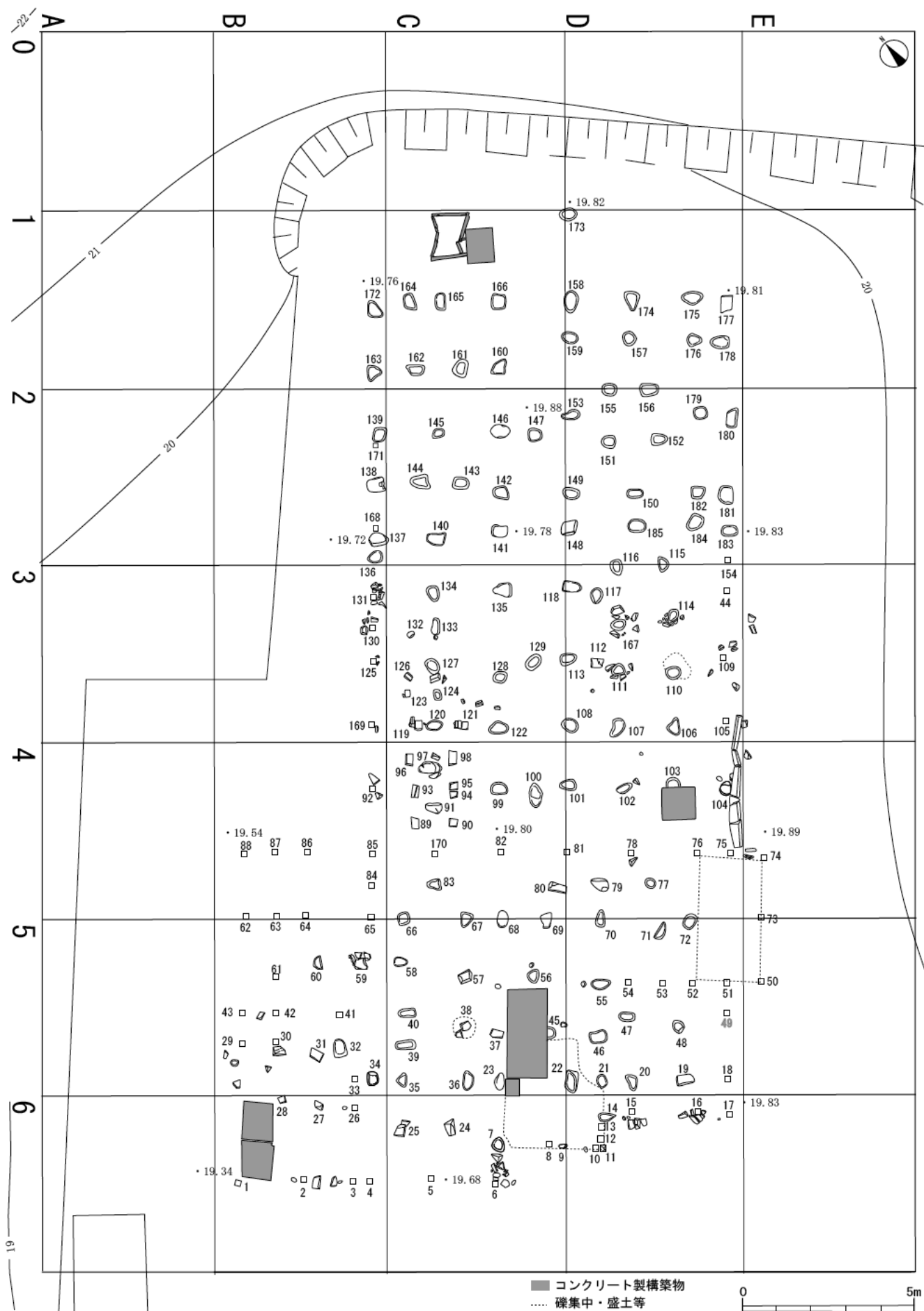
測量調査で記録した礎石は、①自然石玉石が103個、②切石が12個、③コンクリート基礎Aが44個、④コンクリート基礎Bが8個、⑤コンクリート基礎Cが2個、⑥コンクリートブロックが15個、⑦コンクリートが1個の合計185個である。

(2) 基本的な層序

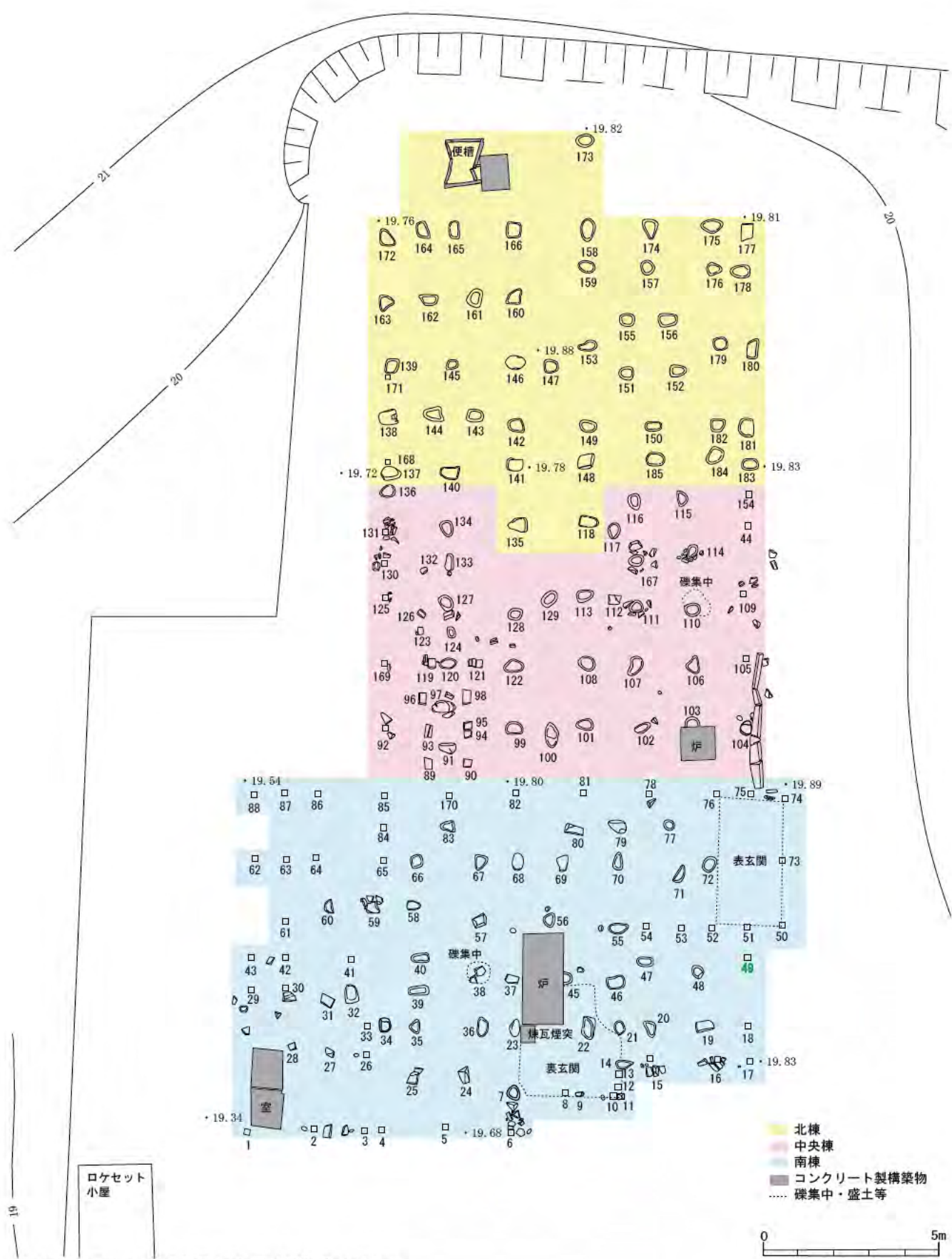
駅通所主屋は、北側にある標高24.7mの小丘陵の中腹を削平し一部盛土により整地し建てられている。現況での標高は、19.34～19.90mを測る。基本層序は以下に示す通り整理した。なお、挿図の堆積層断面図では、自然堆積層を算用数字で、人為的堆積層及び局所的な自然層は○付数字で示している。○付数字で示した堆積層の説明は挿図及び本文中に記載している。

基本層序

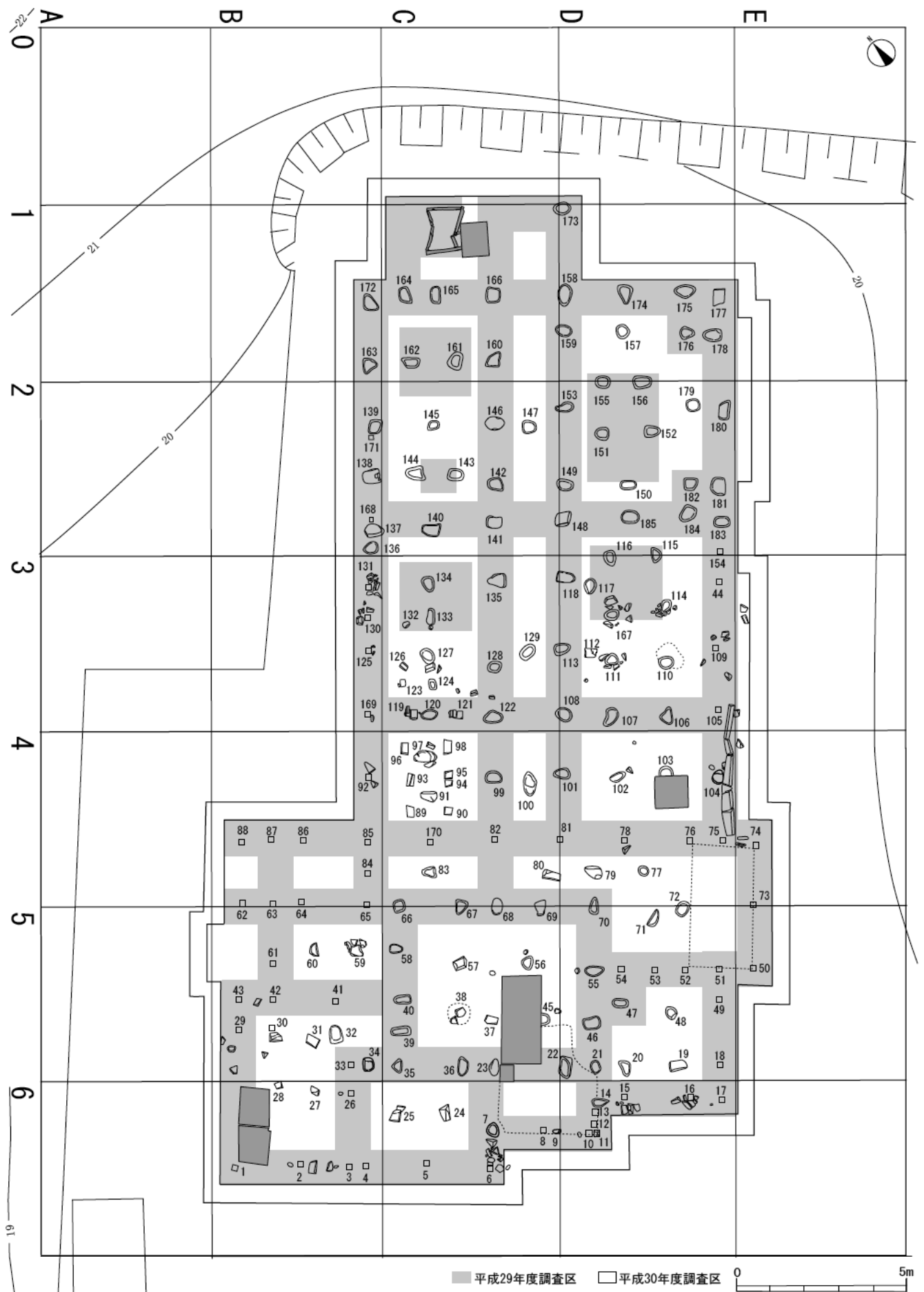
- 1層 黒褐色土(10YR2/3) 雨などにより建物の下に運ばれた堆積土。
- 2層 黒色土(10YR2/1) 旧地表1 場所により下部に黄褐色火山灰(10YR5/3) 樽前a火山灰が混ざる。
しまり有。
- 3層 黒色土(10YR1.7/1) 旧地表2 しまり無。
- 4層 黒褐色土(10YR2/2) 5層を含む、しまり有。漸移層。
- 5層 褐色火山灰(10YR4/6) パミス5mmを10%ほど含む。摩周e火山灰(Ma-e:5,500年前)。
- 6層 明褐色火山灰(7.5YR5/8) パミス5～15mmで構成。摩周g火山灰(Ma-g)。
- 7層 黄褐色火山灰(10YR5/8) パミス1～3mmで構成。摩周h火山灰(Ma-h)。
- 8層 明黄褐色火山灰(10YR6/8) パミス5～30mmで構成。摩周i火山灰(Ma-i)。
- 9層 褐灰色火山灰(10YR4/1) 摩周j火山灰(Ma-j)。
- 10層 黒褐色火山灰(10YR2/2) パミス1～5mmを10%含む(Ma-k)。
- 11層 黒色土(10YR1.7/1)。
- 12層 黒褐色土(10YR2/3)。
- 13層 褐色火山灰(10YR4/6)。摩周l火山灰(Ma-l)。



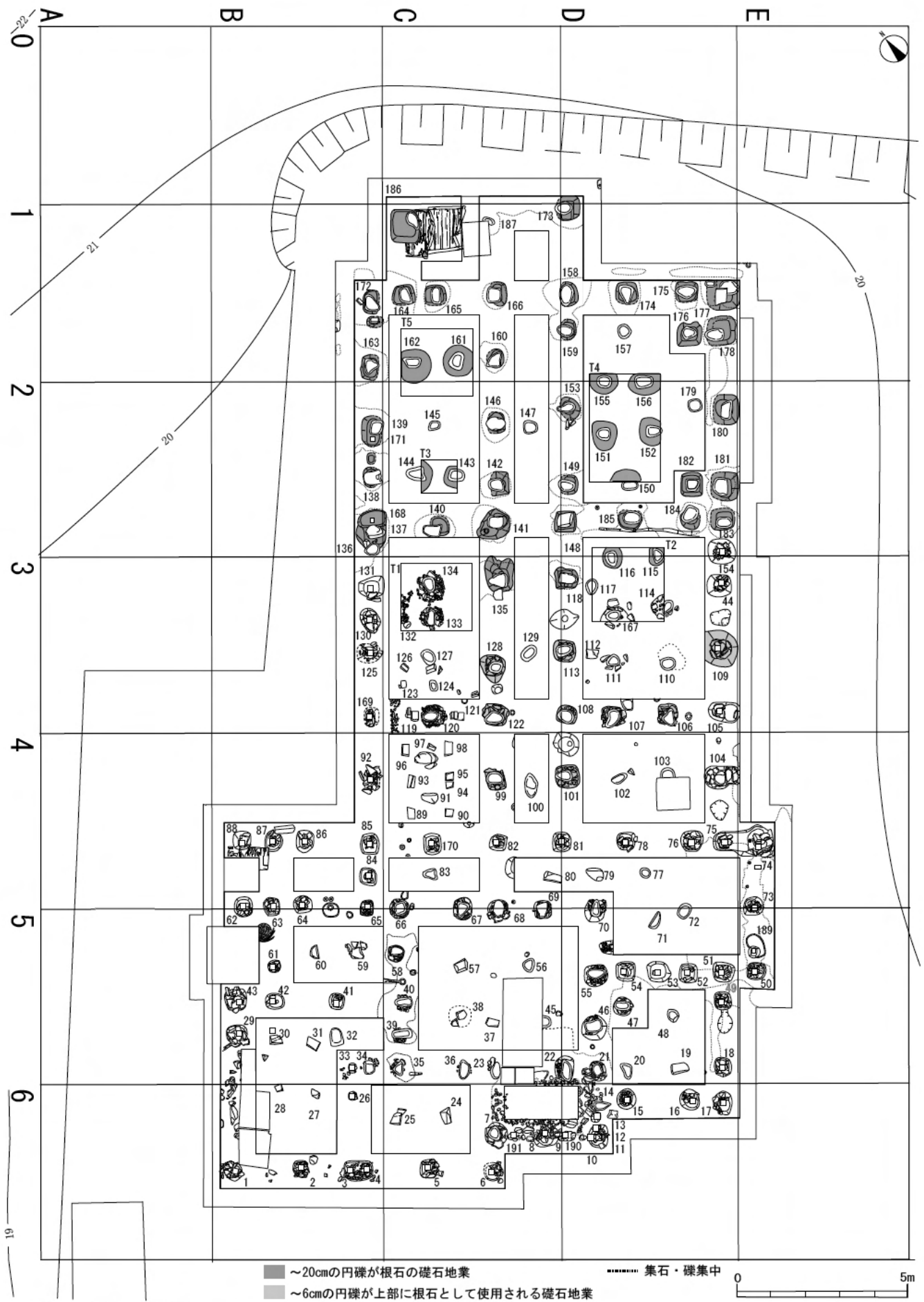
第3図 調査区設定図



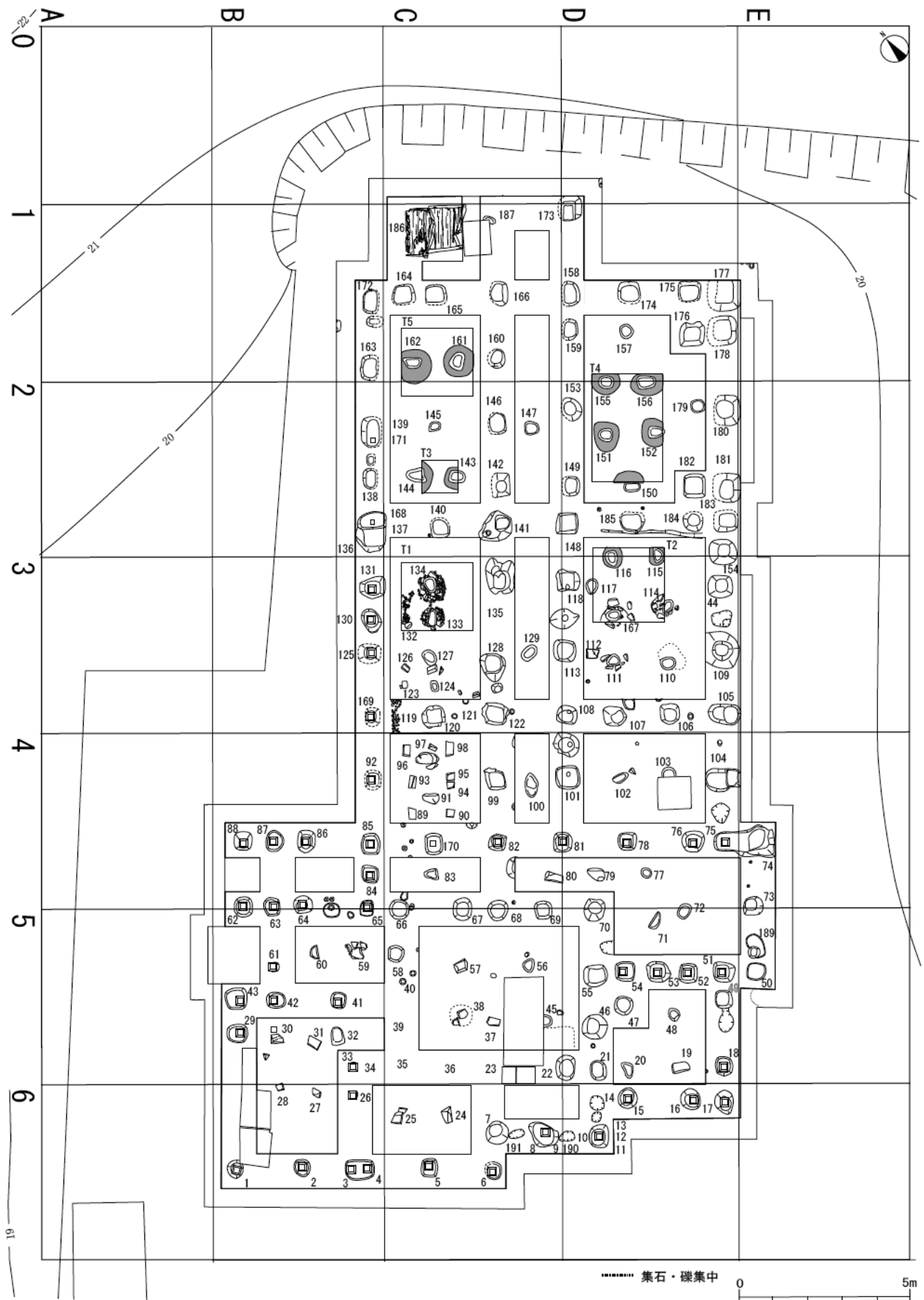
第4図 旧奥行臼駅通所主屋解体後実測図



第5図 発掘調査区



第6図 遺構配置図



第7図 遺構実測図

(3) 発掘調査 (第 5 図・第 6 図・第 7 図)

発掘調査の範囲は、主屋修理に伴うコンクリート基礎敷設部分、北棟ジャッキアップに伴う支台部分 (T1～5)、外構工事 (雨落) 部分である。以下、北棟、中央棟、南棟と区分し調査結果を述べる。

北棟 (第 8 図・第 9 図・第 2 表・第 3 表)

大正 9 年 (1920) に増築された建物である。調査区内では、測量調査時に 43 個の礎石を確認、内訳は、自然石玉石が 40 個、コンクリート基礎 B が 2 個、コンクリートが 1 個である。

発掘調査により新たに自然石玉石が 2 個 (礎石番号 186、187) 検出され合計 45 個となった。この内、礎石地業が有るものが 44 個、無いものは 1 個で、礎石番号 187 である。その他検出された遺構は、柱穴 11 基、溝跡 1 ヵ所、土坑 2 基、旧便槽跡 1 ヵ所、集石 6 ヵ所である。

出土遺物は、陶磁器類 173 点、金属製品 61 点、ガラス製品 61 点、木製品 3 点、動物遺体 656 点、その他 15 点、合計 969 点である。

礎石地業 (第 10 図・第 11 図)

地業は 1 層除去後に検出された。形状は、楕円形、隅丸方形、大きさは、上端 52～86cm、下端 34～53cm、深さ 30～55cm を測り断面形状は箱型である。地業の根石は、～20cm の円礫を含む黒褐色土で礎石番号 163・186 を除き、貝類を多く含み海岸から採取して来たことがわかる。北棟で検出した地業は、全て同じものを使用し、硬くしめられている。ほとんどの地業の周囲には、根石の円礫が広がる。また、後年補強を施しているものや柱穴を伴う地業がある。

後年補強などを施しているものは、礎石番号 139・171、137・168、177、135 の地業である。

礎石番号 139・171、礎石番号 137・168 の地業は、コンクリート礎石 C の 171、168 を設置するために 139・137 の地業を拡幅したものである。礎石番号 171 は、礎石番号 139 の地業を南側に拡幅し底面は、同じ高さまで掘り込み、礎石を打ち込み根石を入れている。礎石番号 168 は、礎石番号 137 の地業を北側に拡幅し、礎石の長さまで掘り込み、礎石設置後根石を入れている。礎石番号 139 と 137 の沈み込みにより補強を行ったと思われる。

礎石番号 177 は、調査前はコンクリート礎石のみであったが、1 層除去後、コンクリート礎石下部から大きさ 26.2×26.5cm、厚さ 23cm の自然石玉石が出土した。自然石玉石の沈み込みをコンクリートで補強したものと思われる。

礎石番号 135 は、調査前は自然石玉石のみであったが、1 層除去後、南側に大きさ 27×30cm、厚さ 8cm のコンクリートが出土した。補強のために設置されたものと思われる。

地業内に柱穴を伴うものは、礎石番号 118、141、185 である。

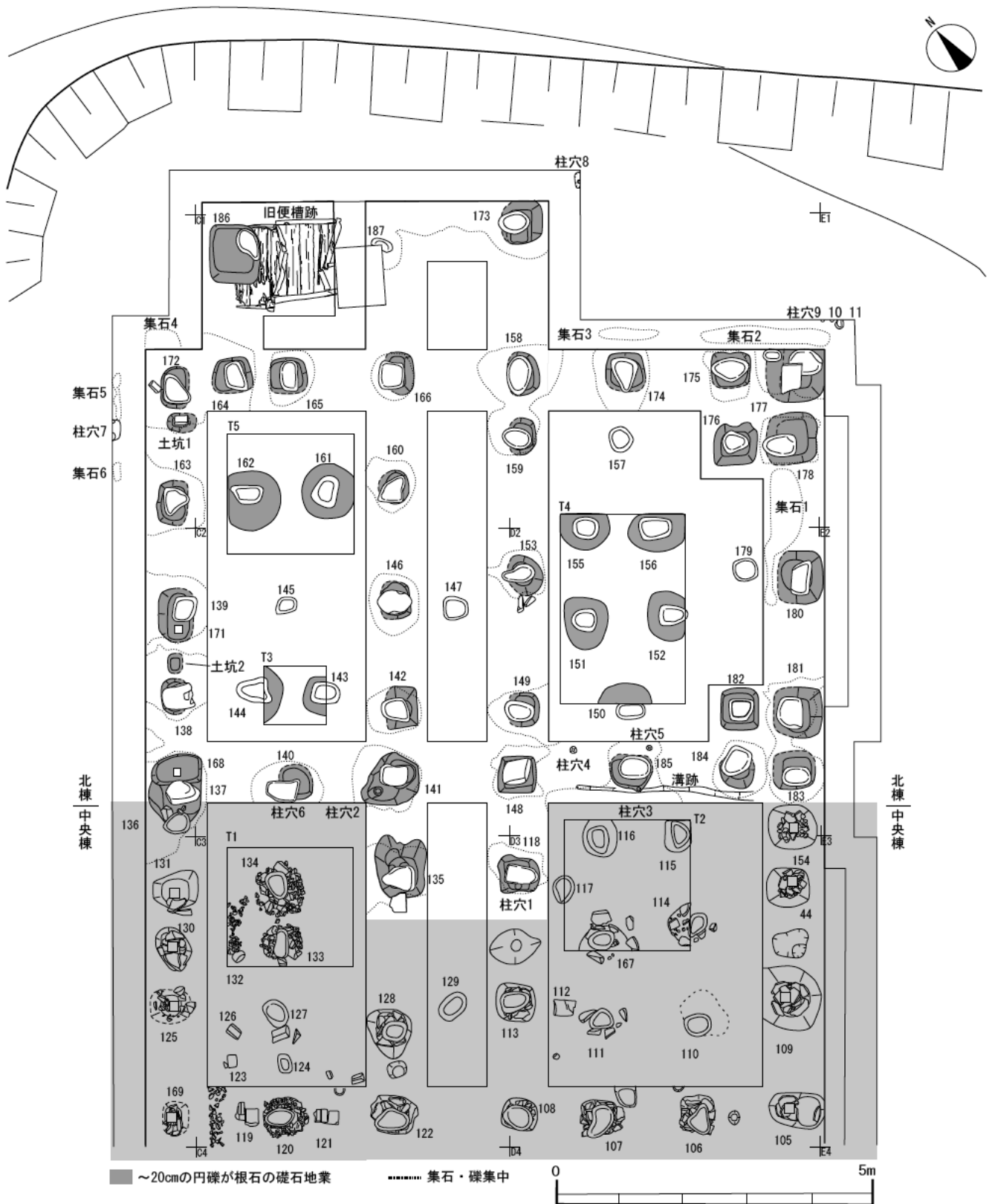
礎石番号 118 は、地業内の根石を取り除くと、地業底部南側から上端 14cm、深さ 82.4cm の柱穴が検出された。(柱穴 1)

礎石番号 141 は、地業を西側に約 40cm 拡幅している。拡幅部、1 層下面から上端 14cm、下端 4cm、深さ 16cm の柱穴が検出された。(柱穴 2)

礎石番号 185 は、1 層下面、地業の南端のほぼ中央から、上端 5cm、下端 2cm、深さ 44cm の柱穴が検出された。(柱穴 3)

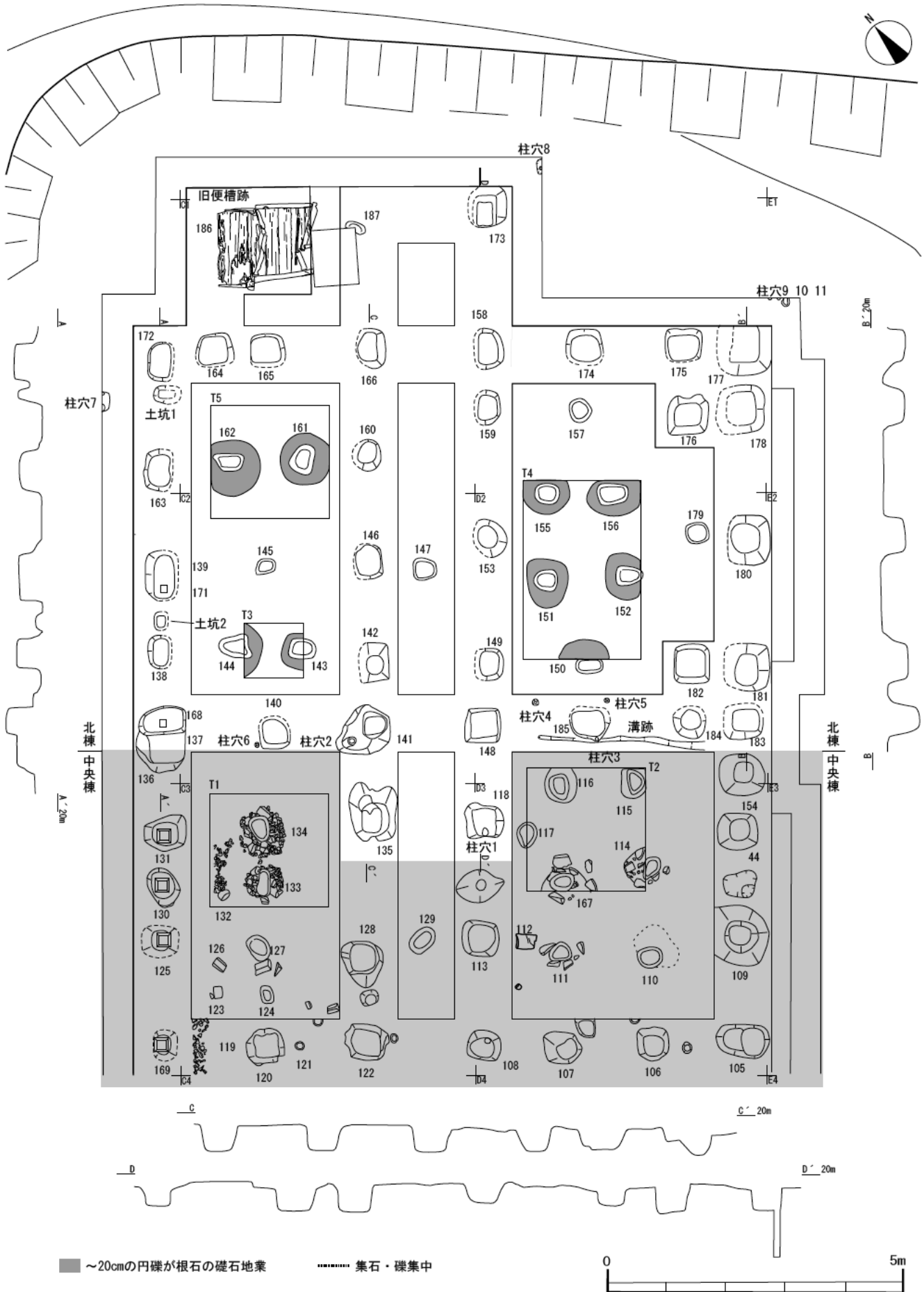
礎石番号 186、187 は、測量調査では確認出来なかった礎石である。いずれも 1 層下面から出土。

礎石番号 186 の地業は後述する旧便槽跡のほぼ直上に位置する。形状は隅丸方形、上端 84～95.6cm、



第8図 北棟遺構配置図

下端 70.2~84.0cm、深さ 25cm と北棟の地業としては浅い、旧便槽廃棄後に造られた地業である。礎石番号 187 は、便槽の東側のコンクリートの下部 1 層下面から出土。地業は無く、~7cm の円礫の上に添



第9図 北棟実測図

えられている。コンクリートを固定するために置かれたものと思われる。

柱穴（1～11）（第12図・第13図・第14図）

柱穴は、11基検出された。柱穴1～3は、礎石地業内に伴うものである。

柱穴4は、D2グリッド礎石番号185の北西、5層上面で検出された。上端11cm、下端5cm、深さ25cmを測る。

柱穴5は、D2グリッド礎石番号185の北、5層上面で検出された。上端9.6cm、下端4.6cm、深さ8cmを測る。

柱穴6は、C2グリッド礎石番号140の地業の南西、5層上面で検出された。上端8cm、下端4cm、深さ25cmを測る。

柱穴7～11は、建物外周で検出された柱穴である。

柱穴7は、B1グリッド、礎石番号172の西、9層上面で検出された。およそ半分ほどの検出であるが、上端84.1cm、下端80cm、深さ63cmを測り、13層まで掘り込まれている。柱穴内の両端に、2本の柱が設置されたと思われる、北側は柱材が残存している。柱材は、径14cm、長さ56.2cmを測る。南側は、柱材は残存せず柱痕が残る。径22.3cm、深さ60cmを測る。覆土は、11～13層の堀上土である。

柱穴8は、D0グリッド、礎石番号173の北、9層上面で検出された。およそ半分ほどの検出であるが、上端65.6cm、下端39.2cm、深さ23.6cmを測る。柱穴内に、1本の柱痕が残る。上端16cm、下端10cm、深さ45.6cmを測る。

柱穴9～11は、E1グリッド、礎石番号177の北、11層上面で検出された。柱穴9は、上端13.8cm、下端8cm、深さ82.4cmを測る。柱穴10は、上端13.8cm、下端8cm、深さ75.6cmを測る。柱穴9.10は、同規模の柱が打ち込まれたと思われる。柱穴11は、上端54.6cm、下端20cm、深さ47.6cmを測る。柱穴内には幅5cm、長さ40cmの角材が残存する。

溝跡

溝跡は1か所検出された。D2グリッド礎石番号185・184の南、5層上面で検出され、幅6.4～14.3cm、長さ2m91cm、深さ3cmを測る。東側は不明瞭である。

土坑（1～2）（第10図）

土坑は2基検出された。

土坑1は、B1グリッド礎石番号172の南、1層除去後、8層上面で検出された。上端48.2cm、下端27.6cm、深さ40cmを測る。形状は、楕円形で底面は平底である。底部には、縦12cm、横20cm、厚さ8cmの煉瓦が横に2個積まれている。

土坑2は、B2グリッド礎石番号138の南、1層除去後、6層上面で検出された。上端32.4cm、下端19.6cm、深さ10cmを測る。形状は、楕円形で底面は平底である。

旧便槽跡（第15図）

旧便槽跡は、C1グリッド、礎石番号186、コンクリート製便槽の下部から検出された。検出されたのは便槽板枠であり、便槽自体の平面プランは、上部に後年コンクリート製の便槽が設置されたことから不明である。出土した便槽板枠（厚さ5cm）と土層断面を観察すると13層から掘り込まれ、130×160cm、

深さ 90cm の規模の便槽があったと思われる。

集石 (1~6)

集石は、地業周囲のものを除くと 6カ所検出された。

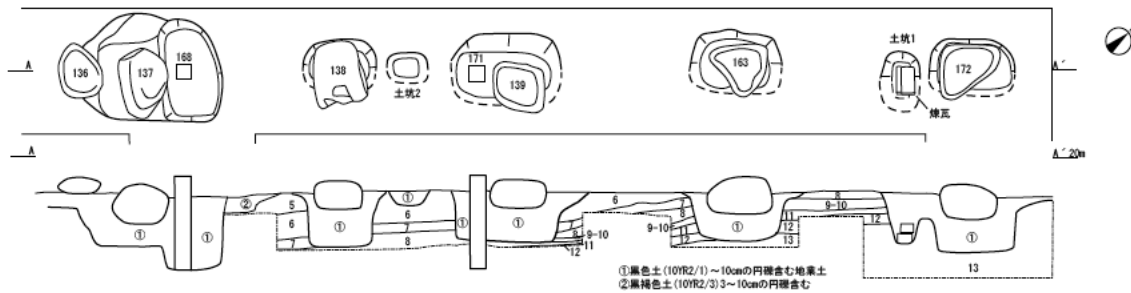
集石 1 は、D1-2 グリッド、礎石番号 180 の西側に位置し、1 層除去後検出された。長さ 2m32cm、幅 10~50cm、厚さ 8 cm を測る。

集石 2~6 は、建物外周で検出されたものである。

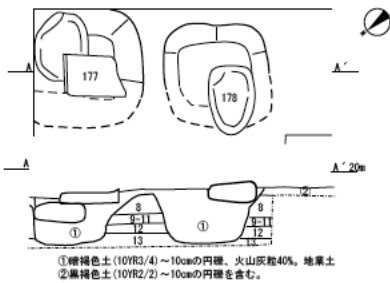
集石 2 は、D-E1 グリッド、礎石番号 176・177 の北側に位置し、1 層除去後検出された。長さ 2m5cm、幅 35cm、厚さ 4cm を測る。

集石 3 は D1 グリッド、礎石番号 174 の北側に位置し、1 層除去後検出された。長さ 97.5cm、幅 20cm、厚さ 5cm を測る。

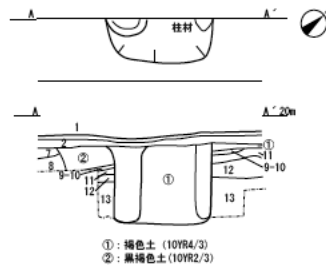
集石 4 は、B1 グリッド、礎石番号 172 の北側に位置し、1 層除去後検出された長さ 60cm、幅 30cm、厚



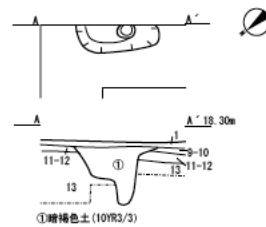
第10図 北棟礎石地業検出状況 (礎石番号: 137-172)



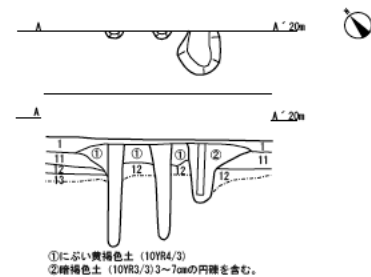
第11図 北棟礎石地業検出状況 (礎石番号: 177-178)



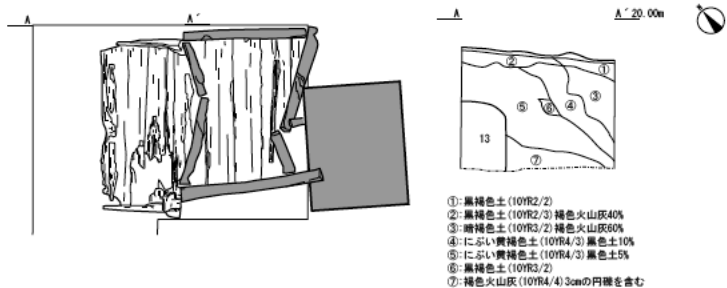
第12図 北棟柱穴7検出状況



第13図 北棟柱穴8検出状況



第14図 北棟柱穴9・10・11検出状況



第15図 北棟旧便槽跡検出状況



さ 4.5cm を測る。

集石 5 は、B1 グリッド、礎石番号 172 の西側に位置し、1 層除去後検出された。長さ 1m84cm、幅 17～34.6cm、厚さ 5.2cm を測る。

集石 6 は、B1 グリッド、礎石番号 172 の北側に位置し、1 層除去後検出された。長さ 74.2cm、幅 32.2cm、厚さ、4.8cm を測る。

いずれも北棟の礎石地業内の円礫（～20cm）と同じもので、地業内に使用するためのものであろうか。

中央棟（第 16 図・第 17 図・第 4 表・第 5 表）

中央棟は、明治 36 年（1903）～明治 43 年（1910）の創建時から駅通所への用途変更時の時期であるが、増改築により当時の様相は不明である。

調査区内では、測量調査時に 30 個の礎石を確認、内訳は、自然石玉石が 18 個、切石が 1 個、コンクリート基礎 A が 5 個、コンクリート基礎 B が 4 個、コンクリートブロックが 2 個である。この内、礎石地業が有るものが 26 個、無いものは 4 個で、礎石番号 117、119、121、136 である。その他検出された遺構は、柱穴 12 基、土坑 5 基、集石 1 か所である。

出土遺物は、陶磁器類 11 点、金属製品 73 点、ガラス製品 31 点、木製品 1 点、動物遺体 31 点、その他 3 点、合計 150 点である。

礎石地業

礎石地業は 1 層下面、整地層下面から検出された。形状は、楕円形、隅丸方形、大きさは、上端 44～103.4cm、下端 27.2～58.2cm、深さ 16.6～86.8cm を測り断面形状は箱型である。地業の根石は、～8cm の円礫、～40cm の切石、コンクリート片である。以下、礎石の種別により礎石地業について述べる。

自然石礎石の礎石地業

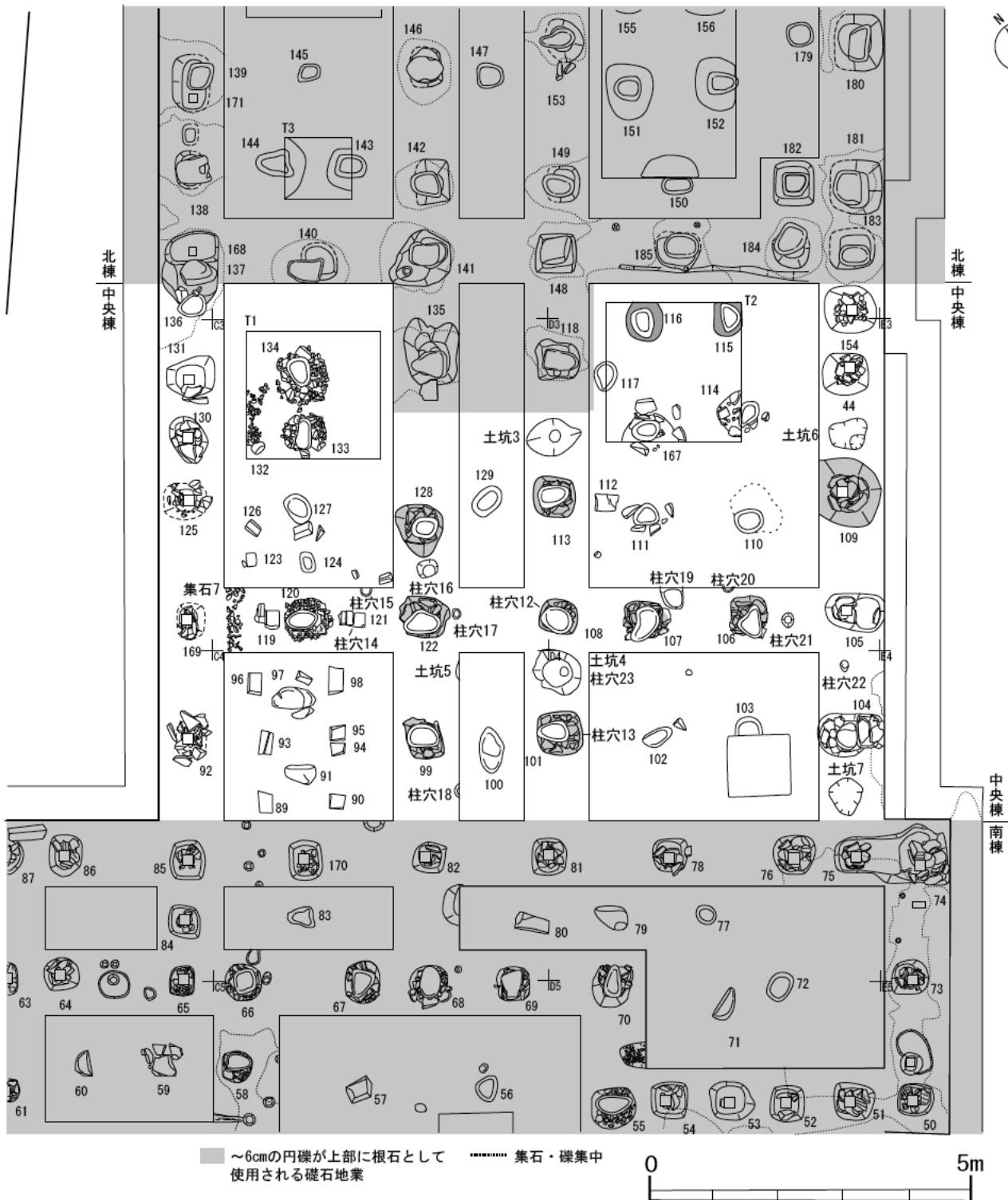
自然石礎石は、礎石番号 104 を除き建物内に配置されている。礎石地業の根石の設置などに違いがあり、以下のように分けられる。①下部に切石を設置し、上部に～6cm の円礫を敷設し根石にするものが 8 個（礎石番号：128・122・99・113・108・101・107・106）、②上部～下部まで切石と円礫を混同し根石にするものが 3 個（礎石番号：120・167・114）、③～20cm の円礫を根石にするものが 2 個（礎石番号：115・116）、北棟の地業と同様のもの、④地業内に 2 か所の掘り込みがあり、円礫、切石、コンクリート片を混同し根石にするものが 1 個（礎石番号：104）、⑤地業がなく切石で礎石を固定するもの 3 個（礎石番号：132・133・134）に分けられる。

コンクリート礎石 A の礎石地業

コンクリート礎石 A は、建物西側に設置されている。（礎石番号：131・130・125・169・92）礎石底部に～40cm の切石を設置し、地業上部まで切石と円礫を混同し根石にし、黒褐色土で締め固めている。底部以外の切石の設置の仕方に効果的な組み方がないように思われる。礎石番号 130 のように根石が少ない地業もある。

コンクリート礎石 B の礎石地業

コンクリート礎石 B は、建物東側に設置されている。（礎石番号：154・44・109・105）礎石底部は、基本的に切石を設置し根石にしているが、～8cm の円礫、コンクリートが付着した円礫、コンクリート片が混じる。地業内に 2 か所の掘り込みがあるものに、礎石番号 105 がある。礎石の違いはあるが南側の礎石番号 104 と同じく建物改築に伴う礎石位置の変更によるものであろうか。

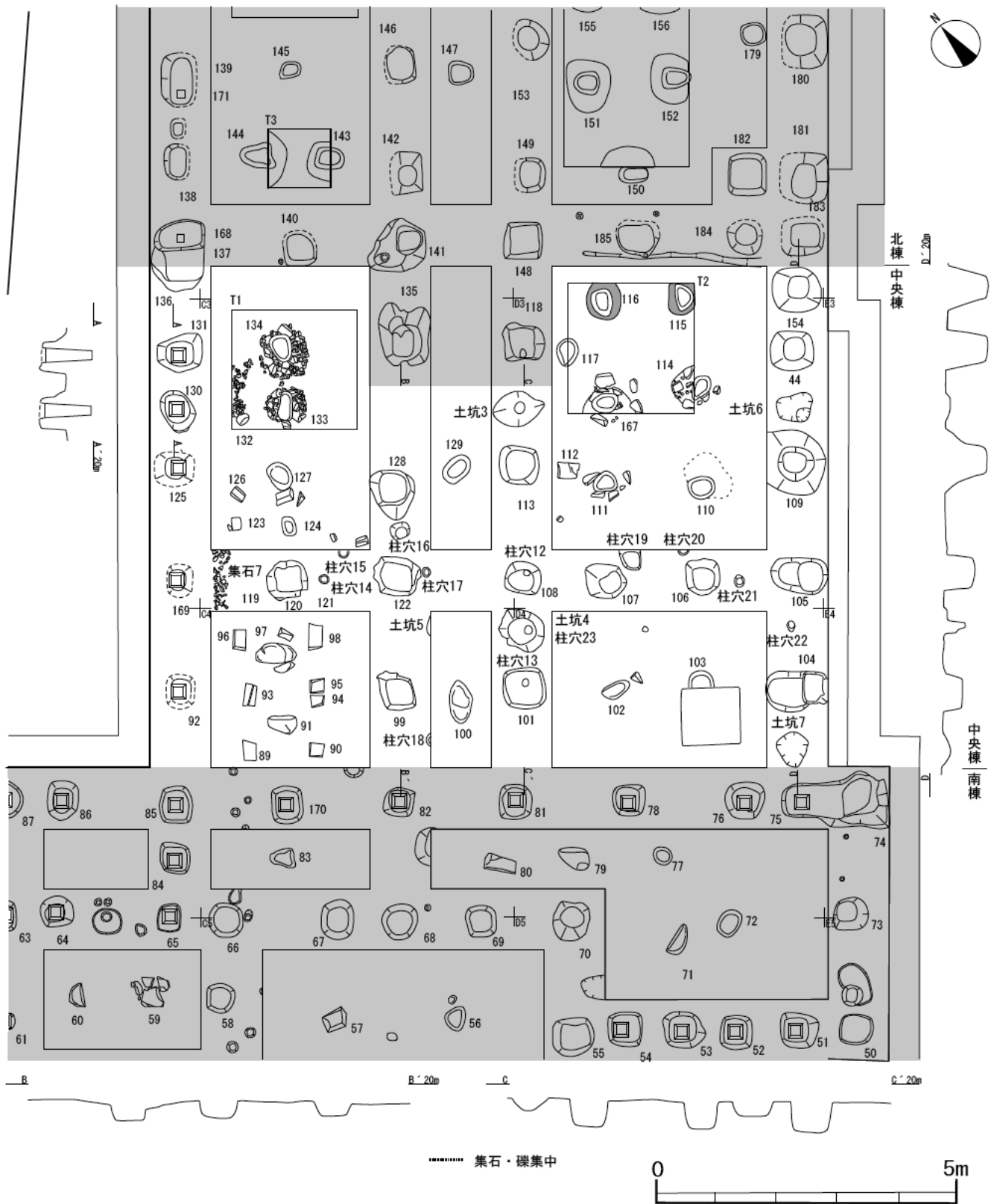


第16図 中央棟遺構配置図

また、地業内に柱穴を伴うものがある。礎石番号 108、101 は、地業内の根石を取り除くと、地業底部北側から上端 10cm、深さ 20cm (柱穴 12)、上端 12cm、深さ 43cm (柱穴 13) の柱穴が検出された。

柱穴 (12~23)

柱穴は、12 基検出された。柱穴 12、13 は、礎石地業内、柱穴 23 は、土坑 4 底面から検出されたものである。柱穴 14~22 は、3 層上面で検出された。



第17図 中央棟実測図

柱穴 14 は、C3 グリッド、礎石番号 121 の下部にあたる。上端 17.4cm、下端 12.2cm、深さ 35cm を測る。

柱穴 15 は、C3 グリッド、礎石番号 121 の北に位置する。上端 17cm、下端 12cm、深さ 20cm を測る。

柱穴 16 は、C3 グリッド、礎石番号 128 と 122 の間に位置する。上端 32cm、下端 20cm、深さ 21cm を測る。

柱穴 17 は、C3 グリッド、礎石番号 122 の東に位置する。上端 16cm、下端 10.8cm、深さ 48cm を測る。

柱穴 18 は、C4 グリッド、礎石番号 99 の南側に位置する。およそ 3 分の 1 ほどの検出規模である。上端 20cm、下端 12cm、深さ 60cm を測る。

柱穴 19 は、D3 グリッド、礎石番号 107 の北側に位置する。上端 42.8cm、下端 28cm、深さ 55.2cm を測る。

柱穴 20 は、D3 グリッド、礎石番号 106 の北側に位置する。およそ半分ほどの検出規模である。上端 18cm、下端 12.4cm、深さ 27.8cm を測る。

柱穴 21 は、D3 グリッド、礎石番号 106 の東側に位置する。上端 17cm、下端 10.6cm、深さ 31.2cm を測る。

柱穴 22 は、D4 グリッド、礎石番号 104 と 105 の間に位置する。上端 28.6cm、下端 12.6cm、深さ 29.8cm を測る。

柱穴 23 は、D4 グリッドポイント付近で検出された土坑 4 の底部から検出された。上端 28.6cm、土坑底面からの深さ 50cm を測る。

土坑 (3~7)

土坑は 5 基検出された。

土坑 3 は、C-D3 グリッド、礎石番号 118、113 の間に位置する。1 層除去後、2 層上面で検出された。上端 85.2cm、下端 19.2cm、深さ 20cm を測る。覆土は、6 層の摩周 g 火山灰 (Ma-g) である。

土坑 4 は、D4 グリッドポイント付近、礎石番号 108、101 の間に位置する。1 層除去後、2 層上面で検出された。上端 73.6cm、下端 46.2cm、深さ 23.6cm を測る。覆土は、6 層の摩周 g 火山灰 (Ma-g) である。底面から柱穴 23 が検出されている。

土坑 5 は、C4 グリッド、礎石番号 122 の南に位置する。1 層除去後、3 層上面でおよそ 4 分の 1 ほどの検出規模である。上端 32.8cm、深さ 8cm を測る。覆土は、6 層の摩周 g 火山灰 (Ma-g) である。

土坑 6 は、D3 グリッド、礎石番号 44、109 の間に位置する。1 層除去後、3 層上面で検出された。上端 43.6cm、下端 39.8cm、深さ 17cm を測る。

土坑 7 は、D4 グリッド、礎石番号 104、75 の間に位置する。1 層除去後、3 層上面で検出された。上端 57cm、下端 51.8cm、深さ 12cm を測る。

集石 (7)

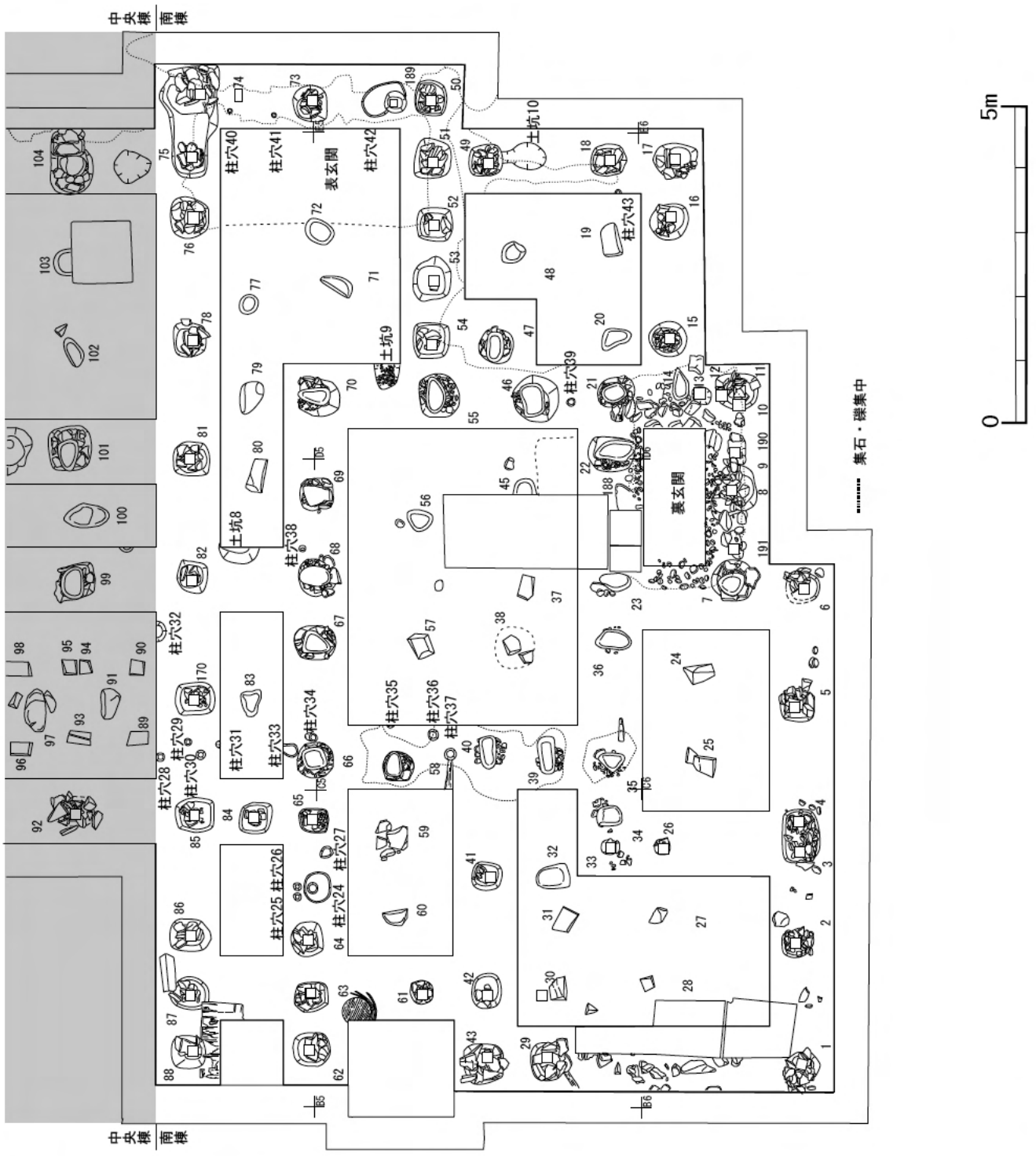
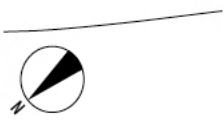
集石は、1 か所検出された。

集石 7 は、C3 グリッド、礎石番号 169、119 の間に位置する。3 層上面で検出された。~10cm の切石が、長さ 98.6 cm、幅 22~28.6cm、厚さ 10cm を測る。

南棟 (第 18 図・第 19 図・第 6 表・第 7 表)

南棟は、昭和 16 年 (1941) に増改築された棟である。

調査区内では、測量調査時に 65 個の礎石を確認、内訳は、自然石玉石が 19 個、切石が 1 個、コンク



リート基礎 A が 38 個、コンクリート基礎 B が 4 個、コンクリートブロックが 3 個である。

発掘調査により新たに自然石玉石が 1 個(礎石番号 188)、コンクリート基礎 C が 1 個(礎石番号 189)、コンクリートブロックが 2 個(礎石番号 190、191) 検出され、69 個となった。

この内、礎石地業が有るものが 60 個、無いものは 9 個で、礎石番号 10、12、23、34、35、36、39、40、188 である。その他検出された遺構は、柱穴 20 基、土坑 3 基、表玄関、裏玄関盛土である。

出土遺物は、陶磁器類 82 点、金属製品 296 点、ガラス製品 46 点、木製品 19 点、動物遺体 60 点、その他 27 点、合計 530 点である。

礎石地業 (第 20 図・第 21 図)

礎石地業は 1 層下面、整地層下面から検出された。形状は、楕円形、隅丸方形、大きさは、上端 26.1～92.4cm、下端 18～78.8cm、深さ 7～70.1cm を測り断面形状は箱型である。地業の根石は、～10cm の円礫、～24cm の切石、コンクリート片である。以下、礎石の種別により礎石地業について述べる。

自然石礎石の礎石地業

自然石礎石は、礎石番号 7、14 を除き建物内に設置されている。

礎石地業があるものが 13 個(礎石番号：7・14・21・22・46・47・55・58・66・67・68・69・70) である。大きさは、上端 40.5～70.4cm、下端 37.6～40.7cm、深さ 8～46.4cm である。根石は、～10cm の円礫、～28cm の切石、コンクリート片である。基本的に地業底面は、大きな切石やコンクリート片が設置され、上部までは、円礫、切石、コンクリート片で締め固められている。

礎石地業がないものは、7 個(礎石番号：23・34・35・36・39・40・188) である。礎石の下部はコンクリート片、～10cm の円礫、切石、上部までは、～10cm の円礫を根石としている。この地点は、整地のため盛土されている、整地後、掘削し根石を入れたと思われるが、明確な掘り込みは、認められなかった。

コンクリート礎石 A の礎石地業

コンクリート礎石 A は、建物外周の西側(礎石番号：62・43・29) 北側(88・87・86・85・170・82・81・78・76・75)、南側(1・2・3・4・5・6・8・11・15・16)、東側(17・18・49)、建物内北西側(礎石番号：63・64・65・61・42)、南東側(礎石番号：51・52・53) に設置されている。

礎石地業は、上端 39.4～92.4cm、下端 23～79.8cm、深さ 8～70.8cm の規模である。根石は、～10cm の円礫、～32cm の切石、コンクリート片である。地業底面には、大きな切石やコンクリート片が設置され、上部も、円礫、切石、コンクリート片で締め固められている。

コンクリート礎石 B の礎石地業

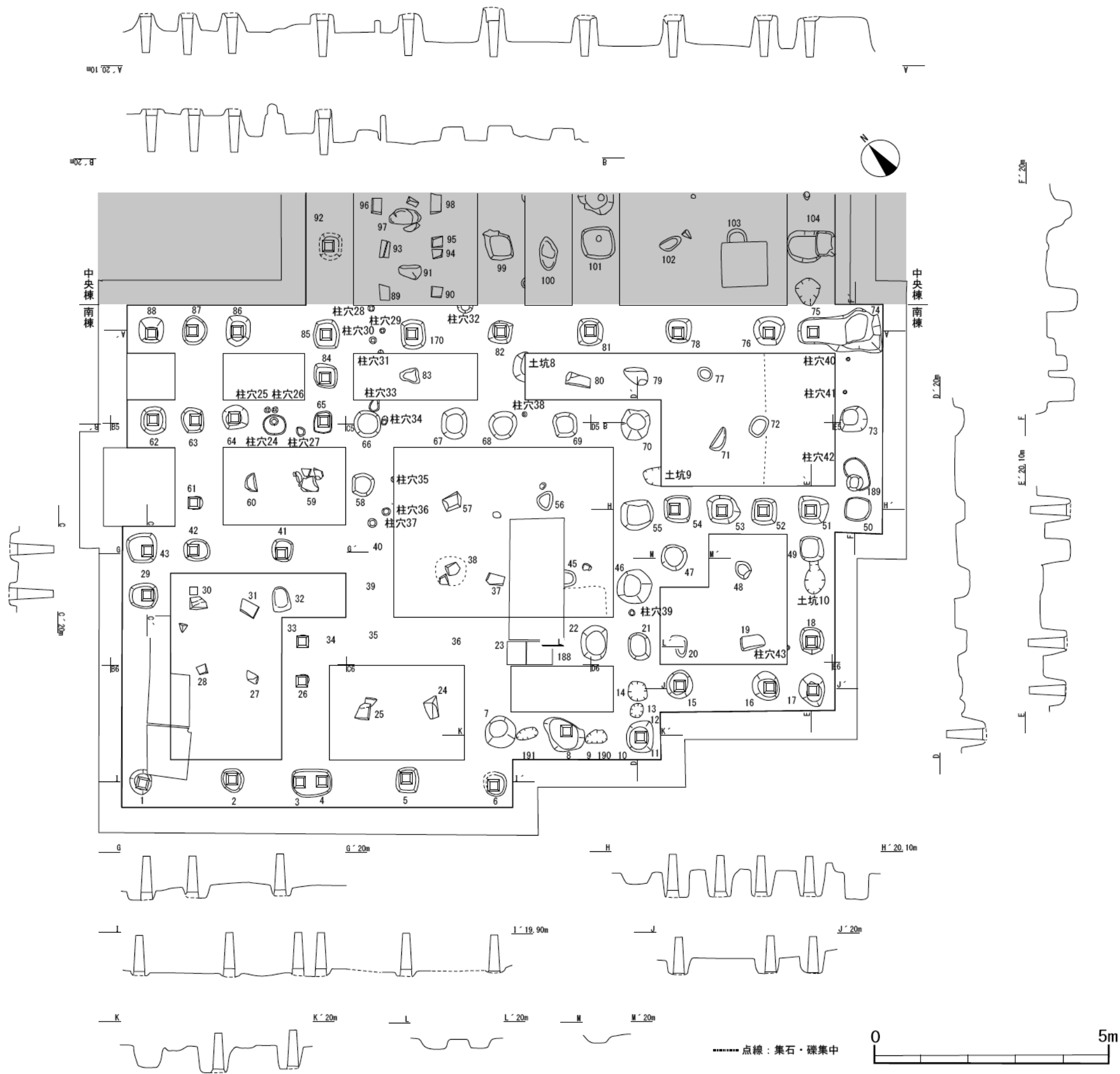
コンクリート礎石 B は、建物外周の東側(礎石番号：74・73・50) 表玄関付近に設置されている。

礎石地業は、上端 49.6～88.2cm、下端 31.4～50cm、深さ 51.2～61.2cm の規模である。礎石番号 74 は、西側の礎石番号 75 と地業が繋がる。根石は、～10cm の円礫、～22cm の切石、コンクリート片である。地業底面には、大きな切石やコンクリート片が設置され、上部も、円礫、切石、コンクリート片で締め固められている。

コンクリート礎石 C の礎石地業

コンクリート礎石 C (礎石番号：189) は、コンクリート礎石 B の礎石番号 50 の北側から発掘調査により検出された。柱穴 42 の南端を掘り込み設置されている。

礎石地業は、上端 34cm、下端 18cm、深さ 20cm の規模である。根石は、～10cm の円礫、～22cm の切石、コンクリート片である。



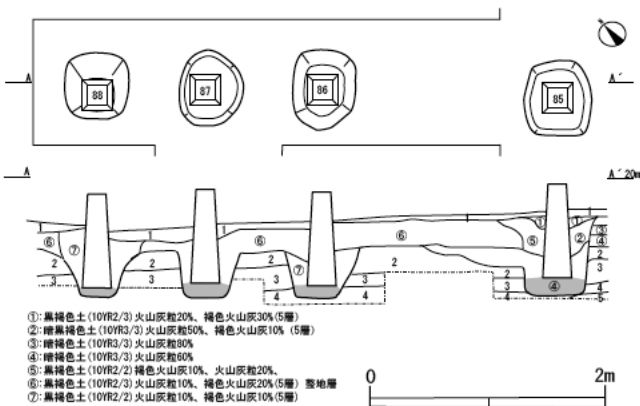
第19図 南棟実測図

切石・コンクリートブロックの礎石地業

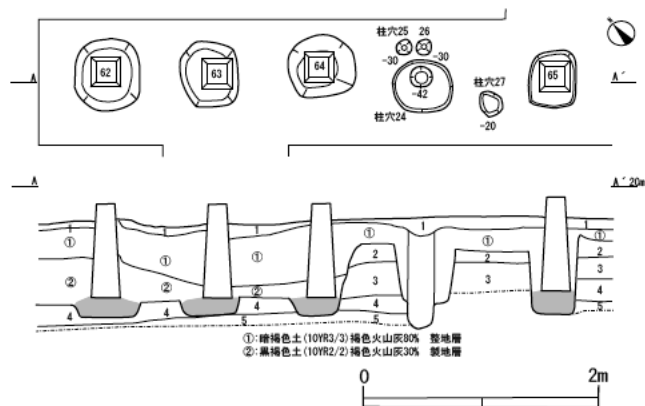
切石（礎石番号：9）、コンクリートブロック（礎石番号：191・190・10・12・13）は、建物外周の南側裏玄関付近に設置されている。

礎石地業があるものは、礎石番号 191、190、13 で、上端 22～44cm、下端 7～10cm、深さ 10cm の小規模なものである。根石は、～10cm の円礫、～22cm の切石、コンクリート片である。

礎石地業がないものは、礎石番号 9、10、12 で、添えられているだけである。



第20図 南棟礎石地業検出状況
(礎石番号:88・87・86・85)



第21図 南棟礎石地業検出状況
(礎石番号:62・63・64・65)

柱穴 (柱穴 24～43)

柱穴は、20 基検出された。

柱穴 24 は、B5 グリッド、礎石番号 64、65 の間、2 層上面から検出された。上端 48cm、下端 36cm、深さ 34cm を測り平底である。北側に柱痕あり、上端 18cm、下端 12.4cm、深さ 42cm を測り平底である。

柱穴 25・26 は、B4 グリッド、柱穴 24 の北側、2 層上面から検出された。上端 14cm、深さ 30cm を測り平底である。

柱穴 27 は、B5 グリッド、礎石番号 65 の南西側、2 層上面から検出された。上端 20cm、下端 18.2cm、深さ 20cm を測り平底である。

柱穴 28～31 は、C4 グリッド、礎石番号 85 と 170 の間、3 層上面で検出された。柱穴 28 は、上端 14cm、下端 12.2cm、深さ 25cm。柱穴 29 は、上端 12cm、下端 9.6cm、深さ 24cm。柱穴 30 は、上端 14cm、下端 10.8cm、深さ 35cm。柱穴 31 は、検出規模はおよそ半分、上端 12cm、下端 9.4cm、深さ 24cm。いずれも平底である。

柱穴 32 は、C4 グリッド、礎石番号 170 の北東側、3 層上面でおよそ半分ほど検出された。上端 32cm、下端 25cm、深さ 60cm を測り平底である。

柱穴 33 は、C4 グリッド、礎石番号 66 の北側、1 層下面から検出された。およそ 3 分の 2 の検出である。上端 26cm、下端 22cm、深さ 30cm を測り平底である。

柱穴 34 は、C4 グリッド、礎石番号 66 の東側、1 層下面から検出された。上端 20cm、下端 13cm、深さ 40cm を測り尖底である。

柱穴 35 は、C5 グリッド、礎石番号 58 の東側から、1 層下面から検出された。およそ 4 分の 1 の検出で上端 12cm を測る。

柱穴 36 は、C5 グリッド、礎石番号 58 の南東側から整地層で検出された。上端 16cm、下端 12.4cm、深さ 30cm を測り平底である。

柱穴 37 は、C5 グリッド、礎石番号 40 の北側から整地層で検出された。上端 18cm、下端 10cm、深さ 27cm を測り平底である。西側に径 12cm、長さ 46cm の柱材が出土している。

柱穴 38 は、C4 グリッド、礎石番号 68 の北東側、1 層下面から検出された。上端 10cm、深さ 20cm を測り尖底である。

柱穴 39 は、D5 グリッド、礎石番号 46 の南側、整地層から検出された。上端 13cm、下端 8.6cm、深さ 20cm を測り尖底である。

柱穴 40 は、E4 グリッド、礎石番号 74 の南側、4 層から検出された。上端 8cm、深さ 10cm を測る。

柱穴 41 は、E4 グリッド、礎石番号 73 の北側、4 層から検出された。上端 8cm、深さ 8cm を測る。

柱穴 42 は、E4 グリッド、礎石番号 50 の北側、4 層から検出された。上端 72cm、下端 66cm、深さ 18cm を測り平底である。南端に礎石番号 189 の地業が柱穴を切って造られる。

柱穴 43 は、D5 グリッド、礎石番号 18 の南西側、4 層から検出された。およそ半分ほどの検出で上端 12cm、下端 6cm、深さ 22cm を測る。

土坑 (8~9)

土坑は、3 基検出された。

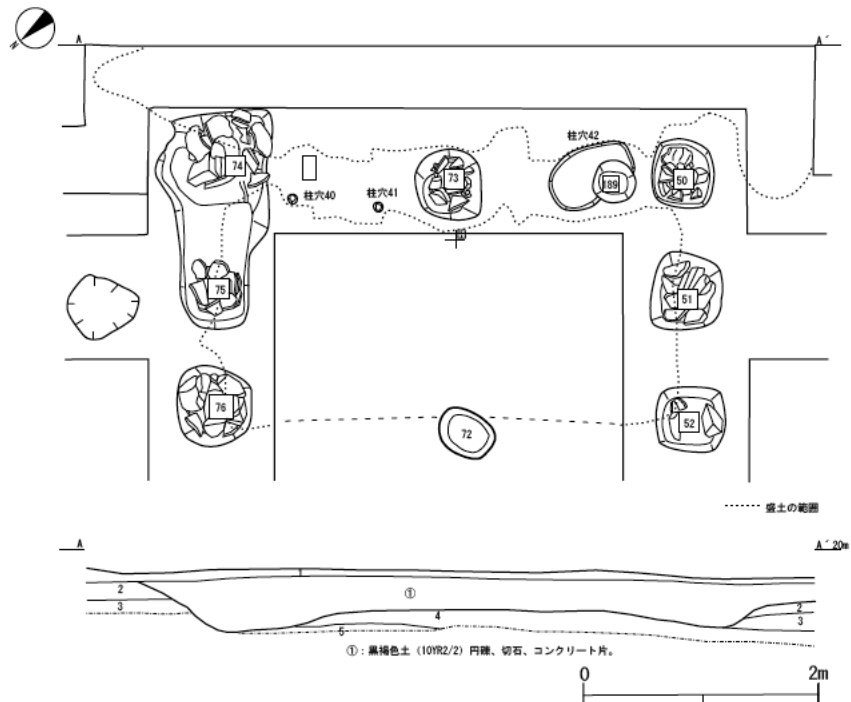
土坑 8 は、C4 グリッド、礎石番号 82 の南東、1 層下面から検出された。およそ 3 分の 1 ほどの検出で、上端 62cm、下端 40.7cm、深さ 24cm を測る。覆土は、6 層の摩周 g 火山灰 (Ma-g) である。

土坑 9 は、D5 グリッド、礎石番号 70 の南東、整地層から検出された。およそ 3 分の 2 ほどの検出で、上端 40cm、深さ 8.0cm を測る。~4cm の切石が詰められている。

土坑 10 は、D5 グリッド、礎石番号 49 の南側、3 層上面で検出された。上端 40.4~65.6cm、深さ 3cm を測る。

表玄関 (第 22 図)

東側の表玄関部分は、測量調査で確認されたとおり、礎石番号 74-73-50-51-52-72-76-75 を繋ぐ 1m80cm×3m40cm の範囲の土が硬くしめられていた。礎石番号 76-75-74-73-50-51-52 の発掘区にあたる部分の 1 層を除去すると ~8cm の円礫、~52cm の切石、~45cm のコンクリート片が出土した。その広がり、北側、東側、南側に認められ、確認出来た規模は、3m×5m90cm である。東側の土層断面



第22図 南棟表玄関盛土図

では、2～4層まで掘り込まれ、その深さは最大40cmを測る。

裏玄関（第23図）

南側の裏玄関部分は、測量調査で確認されたとおり、礎石番号45-22-14-13-12-11-10-9-8-7-23をつなぐ3m×3m10cmの範囲で盛土されていた。

礎石番号22-21-14-13-12-11-10-9-8-7-23の発掘区にあたる部分の1層を除去すると～8cmの円礫、～52cmの切石、～45cmのコンクリート片が出土した。広がり、測量調査の規模と同じであり、厚さは16cmを測る。

その他：便槽板枠（第18図）

南棟B4グリッド、礎石番号88、87の南側から、同番号礎石地業の上部、整地層下面から62cm×1m17cm、厚さ5cmの板が出土した。この地点は使用人用の便所があった場所で、板の形も北棟で出土した便槽板枠と同様である。便槽自体の規模は、不明である。

なお、南側で径60cm、厚さ3cmの桶の底部が整地層下面から出土しているが、便槽に関わるものかどうかは、わからない。

（4）遺物（第8表、第24図、図版4）

出土した遺物の総点数は、1,649点である。遺物の種類は、陶磁器類（飯茶碗・飯茶碗蓋・湯呑碗・猪口・皿・急須・土瓶・徳利・甕・搦鉢・酒瓶蓋・碇子・土管等）、金属製品（鉄鍋・釘・鋸・包丁・火箸・鉄板・鉄線等）、硬貨、ガラス製品（瓶・窓ガラス・おはじき）、木製品（木炭・箸・廃材）、動物遺体（貝類・魚骨・鳥骨・獣骨）がある。各棟の出土遺物数は、下記及び第8表のとおりである。

北棟では、陶磁器類173点、金属製品61点、ガラス製品61点、木製品3点、動物遺体656点、その他15点、合計969点である。遺物は、1層（流土）下面からの出土である。動物遺体の貝類は、殆どが地業内からの出土であり、根石の円礫採取時に含まれたものである。中央棟では、陶磁器類11点、金属製品73点、ガラス製品31点、木製品1点、動物遺体31点、その他3点、合計150点。南棟では、陶磁器類82点、金属製品296点、ガラス製品46点、木製品19点、動物遺体60点、その他27点、合計530点となる。

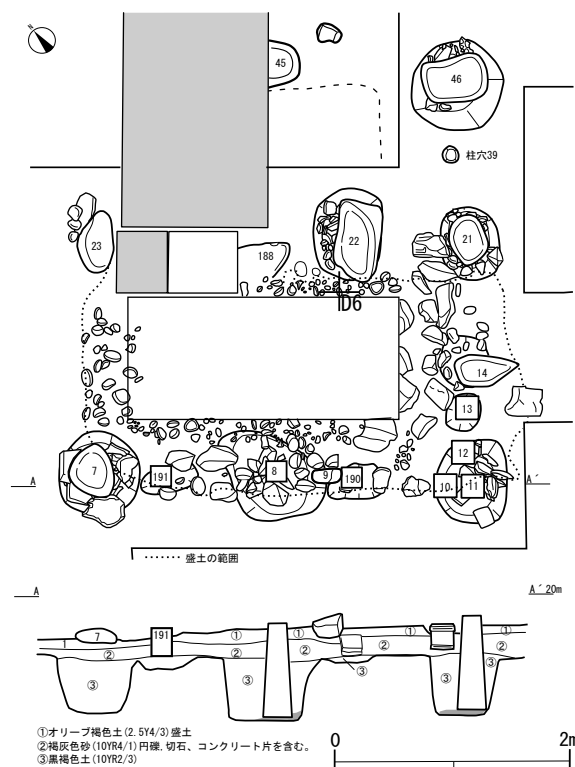
陶磁器類

出土したものは、小片が多く器種特定が困難ものが多い。碗、皿は近代のものである。

1、2は飯茶碗である。

1は口径11.5cm、底径4.6cm、高さ5.9cmを測る。外面に立涌文に花菱文、高台に太い二重線文がつく。

2は、口縁から胴部のもので、口径10.7cmを測る。外面に地文、青海波文、唐草文、内面の縁絵に環



第23図 南棟裏玄関実測図

珞文、見込みに線文がつく。

3は飯茶碗蓋である。口径10.7cm、とり手部分の口径が4.3cm、高さ2.6cmを測る。外面は、幾何文様に華節文、二重線文がつく。内面は瓔珞文が縁をまわる。

4は小杯である。口径8.6cm、底径3.6cm、高さ3.4cmを測る。内面に桜花文に旭日旗が描かれ、歩兵第廿七聯隊と書かれている。

5は皿である。口径11.6cm、底径6.7cm、高さ2.5cmを測る。内面の見込みに鳥文と線文がつく。

6は鉢であろうか、口径23.3cmを測る。外面と内面には唐草文がつく。

7から9は徳利である。

7は、徳利の口縁部、口径5.3cmを測る。越後産焼酎徳利で1860～1920年代に製造されたものである。

8、9は、徳利の底部である。それぞれ、底径8.1cm、底径7.8を測る。五頭山麓（笹岡焼）の部類であり、1870～1920年代に製造されたものである。

10、11は播鉢である。10は、口縁部、上野・高取系播鉢であり、幕末に製造されたものである。11は、胴部、唐津焼播鉢で19世紀に製造されたものである。

金属製品（鉄製品）

12は、包丁である。長さ24.1cm、幅0.3～2.1cmを測り、全体的に錆ついている。

13は、鋸である。断面は方形で両端が外反する。長さ16.3cm、幅4.1cm、断面は1cm角である。

14は、落釘であり、木片が付着している。長さ12.3cm、幅0.3～0.9cmを測り断面は長方形である。

15、16は、火箸である。15は、長さ28.3cm、太さ0.65cm。16は、長さ28.5cm、太さ0.65cmである。上端は丸く、断面は円形である。

硬貨

17は、外貨と思われるが文字が判読出来ない。径1.8cmを測る。18は、昭和34年（1959）穴あき五十円ニッケル貨である。径2.5cm、重さ5gである。

動物遺体

北海道のオホーツク海側で潮間帯から水深30mほどの浅い場所に生息する貝が多くみられる。遺跡近隣の海は岩礁が少なく、砂底の海域であるが、発掘資料もこの海域に生息する貝の種類が多かった。

ホタテガイ、ウバガイの点数が上位をしめた。現代でも食用として利用されるこれらの種は人が食用として利用したあとのものか、自然に海岸に打ち上がったものかは判断できない。

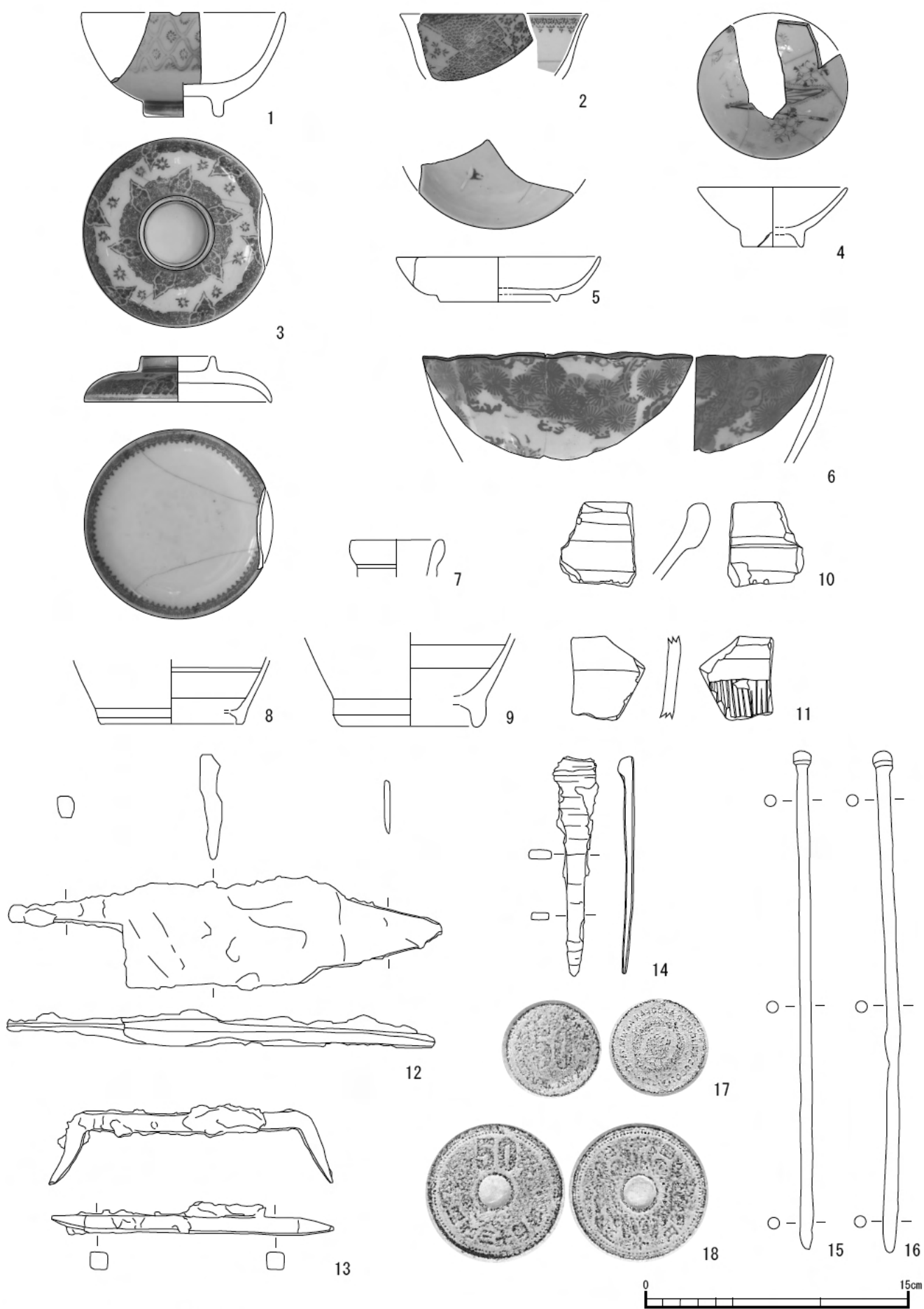
北棟出土のウバガイには、海水中に一定期間存在した事を示すウズマキゴカイの殻跡がついている。同じく北棟出土のオオマルフミガイは、肉食であるタマガイ類の捕食跡がついている。他にもタマガイ類の捕食跡がついているものは4点あった。これらは死貝となってから遺跡に持ち込まれたものであり、食用として利用の後に陸上に廃棄されたものではないと考えられる。

北棟で多くの種類がでた。人が食用とするには考えにくいエゾフネガイ、コウダカスカシガイ、ユキノカサガイがみられるが、これは砂浜に自然に打ち上げられた貝であると考えられる。

エゾアワビ、パイガイは北海道南部以南に生息する貝なので、この2種はなんらかの人為的な移動によりもちこまれたものと考えられる。

オオマルフミガイは水深10m辺りから生息する貝である。漁で混獲として採集され、港に持ってこられ、食用として利用がないので分別の際に捨てられたものが海岸に再漂着したのかもしれない。

種不明の貝類欠片の多くが、角が丸くなっており、死貝となってからしばらく海岸にあり、摩耗したものである。そのことから、利用された土砂に貝が混ざっていて、持ち込まれたと考えられる。



第24図 出土遺物実測図

番号	棟	グリッド	礎石種別	長軸 (cm)	短軸 (cm)	厚さ/高さ (cm)	礎石上 (標高m)	礎石下 (標高m)	高低差 (m)
1	南棟	B6	コンクリート基礎A	16.0	25.0	70.0	19.77	19.34	0.43
2	南棟	B6	コンクリート基礎A	16.0	25.0	70.0	19.84	19.62	0.22
3	南棟	B6	コンクリート基礎A	16.0	25.0	70.0	19.85	19.67	0.18
4	南棟	B6	コンクリート基礎A	16.0	25.0	70.0	19.85	19.67	0.18
5	南棟	C6	コンクリート基礎A	16.0	25.0	70.0	19.86	19.67	0.19
6	南棟	C6	コンクリート基礎A	16.0	25.0	70.0	19.82	19.68	0.14
7	南棟	C6	自然石玉石	45.2	32.0	16.0	19.79	19.73	0.06
8	南棟	C6	コンクリート基礎A	16.0	25.0	70.0	19.83	19.76	0.07
9	南棟	C6	切石	23.0	11.2	17.2	19.86	19.77	0.08
10	南棟	D6	コンクリートブロック	16.0	16.0	21.0	19.81	19.79	0.02
11	南棟	D6	コンクリート基礎A	16.0	25.0	70.0	19.89	19.79	0.10
12	南棟	D6	コンクリートブロック	16.0	16.0	16.0	19.82	19.78	0.04
13	南棟	D6	コンクリートブロック	16.0	16.0	15.6	19.83	19.80	0.03
14	南棟	D6	自然石玉石	49.8	25.5	14.0	19.85	19.81	0.04
15	南棟	D6	コンクリート基礎A	16.0	25.0	70.0	19.90	19.83	0.07
16	南棟	D6	コンクリート基礎A	16.0	25.0	70.0	19.93	19.73	0.20
17	南棟	D6	コンクリート基礎A	16.0	25.0	70.0	19.97	19.83	0.14
18	南棟	D5	コンクリート基礎A	16.0	25.0	70.0	19.91	19.82	0.09
19	南棟	D5	自然石玉石	50.2	28.8	-	19.92	19.85	0.07
20	南棟	D5	自然石玉石	45.6	29.8	-	19.88	19.81	0.07
21	南棟	D5	自然石玉石	40.2	30.4	22.4	19.87	19.78	0.09
22	南棟	D5	自然石玉石	60.4	39.8	15.0	19.84	19.78	0.06
23	南棟	C5	自然石玉石	49.6	29.4	23.4	19.75	19.65	0.10
24	南棟	C6	切石	48.7	28.9	-	19.86	19.72	0.14
25	南棟	C6	切石	45.6	21.2	-	19.89	19.79	0.10
26	南棟	B6	コンクリート基礎A	16.0	25.0	70.0	19.85	19.75	0.10
27	南棟	B6	切石	35.0	26.2	-	19.77	19.72	0.05
28	南棟	B6	切石	20.6	19.7	-	19.78	19.77	0.01
29	南棟	B5	コンクリート基礎A	16.0	25.0	70.0	19.86	19.64	0.22
30	南棟	B5	コンクリート基礎A	16.0	(25.0)	(70.0)	19.81	19.61	0.20
31	南棟	B5	コンクリートブロック	39.7	27.6	-	19.71	19.68	0.03
32	南棟	C5	自然石玉石	54.5	37.8	-	19.83	19.71	0.12
33	南棟	B5	コンクリート基礎A	16.0	25.0	70.0	19.85	19.74	0.11
34	南棟	B5	自然石玉石	39.0	31.6	29.2	19.85	19.75	0.10
35	南棟	C5	自然石玉石	41.2	30.8	21.6	19.84	19.76	0.08
36	南棟	C5	自然石玉石	54.4	29.6	22.4	19.82	19.74	0.08
37	南棟	C5	切石	40.6	24.3	-	19.79	19.74	0.05
38	南棟	C5	切石	28.1	24.7	-	19.84	19.78	0.06
39	南棟	C5	自然石玉石	58.4	26.8	25.2	19.82	19.75	0.07
40	南棟	C5	自然石玉石	49.4	25.2	19.6	19.82	19.75	0.07
41	南棟	B5	コンクリート基礎A	16.0	25.0	70.0	19.88	19.75	0.13
42	南棟	B5	コンクリート基礎A	16.0	25.0	70.0	19.86	19.79	0.07
43	南棟	B5	コンクリート基礎A	16.0	25.0	70.0	19.88	19.74	0.14
44	中央棟	D3	コンクリート基礎B	16.0	25.0	50.0	19.93	19.83	0.10
45	南棟	C5	自然石玉石	-	33.5	-	19.86	19.75	0.11
46	南棟	D5	自然石玉石	48.9	33.6	23.6	19.85	19.71	0.14
47	南棟	D5	自然石玉石	47.6	27.6	19.6	19.88	19.81	0.07
48	南棟	D5	自然石玉石	39.4	30.7	-	19.93	19.85	0.08
49	南棟	D5	コンクリート基礎B	16.0	25.0	50.0	19.89	19.83	0.06
50	南棟	E5	コンクリート基礎B	16.0	25.0	50.0	19.93	19.87	0.06
51	南棟	D5	コンクリート基礎A	16.0	25.0	70.0	19.92	19.85	0.07
52	南棟	D5	コンクリート基礎A	16.0	25.0	70.0	19.92	19.85	0.07
53	南棟	D5	コンクリート基礎A	16.0	25.0	70.0	19.91	19.81	0.10
54	南棟	D5	コンクリート基礎A	16.0	25.0	70.0	19.90	19.81	0.09
55	南棟	D5	自然石玉石	55.6	31.6	21.6	19.87	19.79	0.08
56	南棟	C5	自然石玉石	40.8	35.9	-	19.92	19.79	0.13
57	南棟	C5	切石	42.5	30.4	-	19.88	19.77	0.11
58	南棟	C5	自然石玉石	36.8	25.8	28.4	19.83	19.74	0.09
59	南棟	B5	切石	40.1	30.7	-	19.78	19.69	0.09
60	南棟	B5	自然石玉石	38.7	26.3	-	19.90	19.80	0.10
61	南棟	B5	コンクリート基礎A	16.0	25.0	70.0	19.87	19.76	0.11
62	南棟	B4	コンクリート基礎A	16.0	25.0	70.0	19.88	19.72	0.16
63	南棟	B4	コンクリート基礎A	16.0	25.0	70.0	19.84	19.69	0.15
64	南棟	B4	コンクリート基礎A	16.0	25.0	70.0	19.85	19.71	0.14
65	南棟	B4	コンクリート基礎A	16.0	25.0	70.0	19.90	19.75	0.15

第1表 測量調査礎石計測一覧(1)

番号	棟	グリッド	礎石種別	長軸 (cm)	短軸 (cm)	厚さ/高さ (cm)	礎石上部 (標高m)	礎石下部 (標高m)	高低差 (m)
66	南棟	C4	自然石玉石	35.2	36.2	26.6	19.86	19.73	0.13
67	南棟	C4	自然石玉石	43.0	35.2	29.2	19.84	19.75	0.09
68	南棟	C4	自然石玉石	48.4	31.4	26.6	19.85	19.76	0.09
69	南棟	C4	自然石玉石	43.6	28.8	20.4	19.86	19.78	0.08
70	南棟	D4	自然石玉石	51.5	32.1	22.0	19.87	19.79	0.08
71	南棟	D5	自然石玉石	57.4	28.6	-	19.94	19.83	0.11
72	南棟	D4	自然石玉石	46.8	37.4	-	19.90	19.84	0.06
73	南棟	E5	コンクリート基礎B	16.0	25.0	50.0	19.96	19.90	0.06
74	南棟	E4	コンクリート基礎B	16.0	25.0	50.0	19.96	19.89	0.07
75	南棟	D4	コンクリート基礎A	16.0	25.0	70.0	19.91	19.82	0.09
76	南棟	D4	コンクリート基礎A	16.0	25.0	70.0	19.91	19.83	0.08
77	南棟	D4	自然石玉石	30.1	29.4	-	19.85	19.78	0.07
78	南棟	D4	コンクリート基礎A	16.0	25.0	70.0	19.91	19.78	0.13
79	南棟	D4	自然石玉石	49.7	37.6	-	19.99	19.82	0.17
80	南棟	C4	切石	49.7	14.5	-	19.86	19.80	0.06
81	南棟	C4	コンクリート基礎A	16.0	25.0	70.0	19.91	19.76	0.15
82	南棟	C4	コンクリート基礎A	16.0	25.0	70.0	19.86	19.80	0.06
83	南棟	C4	自然石玉石	38.9	30.6	-	19.89	19.76	0.13
84	南棟	B4	コンクリート基礎A	16.0	25.0	70.0	19.90	19.72	0.18
85	南棟	B4	コンクリート基礎A	16.0	25.0	70.0	19.91	19.72	0.19
86	南棟	B4	コンクリート基礎A	16.0	25.0	70.0	19.89	19.65	0.24
87	南棟	B4	コンクリート基礎A	16.0	25.0	70.0	19.89	19.61	0.28
88	南棟	B4	コンクリート基礎A	16.0	25.0	70.0	19.85	19.54	0.31
89	中央棟	C4	コンクリートブロック	32.3	21.6	-	19.85	19.79	0.06
90	中央棟	C4	コンクリートブロック	23.3	20.4	-	19.84	19.82	0.02
91	中央棟	C4	自然石玉石	49.4	30.5	-	19.89	19.79	0.10
92	中央棟	B4	コンクリート基礎A	16.0	25.0	70.0	19.92	19.69	0.23
93	中央棟	C4	コンクリートブロック	37.8	21.6	-	19.82	19.77	0.05
94	中央棟	C4	コンクリートブロック	20.1	18.1	-	19.84	19.79	0.05
95	中央棟	C4	コンクリートブロック	20.0	18.1	-	19.89	19.81	0.08
96	中央棟	C4	コンクリートブロック	23.7	20.7	-	19.85	19.77	0.08
97	中央棟	C4	自然石玉石	62.5	30.7	-	19.87	19.74	0.13
98	中央棟	C4	コンクリートブロック	37.8	22.5	-	19.85	19.78	0.07
99	中央棟	C4	自然石玉石	47.6	35.2	27.6	19.86	19.75	0.11
100	中央棟	C4	自然石玉石	69.4	38.7	-	19.91	19.79	0.12
101	中央棟	D4	自然石玉石	49.6	29.8	22.4	19.89	19.79	0.10
102	中央棟	D4	自然石玉石	47.1	27.5	-	19.85	19.80	0.05
103	中央棟	D4	自然石玉石	-	40.0	-	19.97	19.82	0.15
104	中央棟	D4	自然石玉石	39.6	30.2	22.6	19.91	19.84	0.07
105	中央棟	D3	コンクリート基礎B	16.0	25.0	50.0	19.94	19.83	0.11
106	中央棟	D3	自然石玉石	50.4	34.8	19.6	19.87	19.81	0.06
107	中央棟	D3	自然石玉石	58.8	34.2	22.4	19.86	19.78	0.08
108	中央棟	D3	自然石玉石	49.0	38.6	28.0	19.89	19.76	0.13
109	中央棟	D3	コンクリート基礎B	16.0	25.0	50.0	19.92	19.84	0.08
110	中央棟	D3	自然石玉石	42.5	38.4	-	19.92	19.82	0.10
111	中央棟	D3	自然石玉石	38.7	31.9	-	19.83	19.75	0.08
112	中央棟	D3	切石	38.4	25.4	-	19.81	19.72	0.09
113	中央棟	C3	自然石玉石	28.6	33.0	26.8	19.90	19.71	0.19
114	中央棟	D3	自然石玉石	44.0	30.6	21.7	19.87	19.83	0.04
115	中央棟	D3	自然石玉石	43.6	38.6	23.9	19.89	19.84	0.05
116	中央棟	D3	自然石玉石	44.6	32.8	23.4	19.90	19.75	0.15
117	中央棟	D3	自然石玉石	44.8	33.6	24.1	19.86	19.75	0.11
118	北棟	D3	自然石玉石	53.0	30.4	20.0	19.88	19.84	0.04
119	中央棟	C3	コンクリートブロック	40.0	34.0	17.6	19.83	19.76	0.07
120	中央棟	C3	自然石玉石	49.6	30.8	22.0	19.86	19.75	0.11
121	中央棟	C3	コンクリートブロック	40.0	22.0	25.0	19.83	19.74	0.09
122	中央棟	C3	自然石玉石	56.8	37.0	25.2	19.84	19.73	0.11
123	中央棟	C3	コンクリートブロック	21.4	22.6	-	19.89	19.85	0.04
124	中央棟	C3	自然石玉石	22.7	20.4	-	19.83	19.78	0.05
125	中央棟	B3	コンクリート基礎A	16.0	25.0	70.0	19.93	19.74	0.19
126	中央棟	C3	コンクリートブロック	24.9	17.8	-	19.89	19.81	0.08
127	中央棟	C3	自然石玉石	44.7	36.1	-	19.90	19.77	0.13
128	中央棟	C3	自然石玉石	42.8	33.2	22.6	19.82	19.76	0.06
129	中央棟	C3	自然石玉石	52.9	37.6	-	19.93	19.80	0.13

第1表 測量調査礎石計測一覧(2)

番号	棟	グリッド	礎石種別	長軸 (cm)	短軸 (cm)	厚さ/高さ (cm)	礎石上部(標高m)	礎石下部(標高m)	高低差 (m)
130	中央棟	B3	コンクリート基礎A	16.0	25.0	70.0	19.93	19.75	0.18
131	中央棟	B3	コンクリート基礎A	16.0	25.0	70.0	19.89	19.75	0.14
132	中央棟	C3	切石	20.6	18.7	11.3	19.85	19.79	0.06
133	中央棟	C3	自然石玉石	47.6	20.8	20.7	19.82	19.75	0.07
134	中央棟	C3	自然石玉石	45.0	35.6	21.9	19.76	19.64	0.12
135	北棟	C3	自然石玉石	53.6	39.6	15.2	19.83	19.80	0.03
136	中央棟	B2	自然石玉石	42.4	33.0	25.4	19.77	19.75	0.02
137	北棟	B2	自然石玉石	54.6	38.4	30.2	19.78	19.72	0.06
138	北棟	B2	自然石玉石	50.6	41.0	20.4	19.78	19.74	0.04
139	北棟	B2	自然石玉石	39.6	35.0	22.0	19.80	19.78	0.02
140	北棟	C2	自然石玉石	52.0	32.0	20.0	19.79	19.75	0.04
141	北棟	C2	自然石玉石	44.2	30.4	20.6	19.85	19.78	0.07
142	北棟	C2	自然石玉石	42.0	38.0	19.6	19.85	19.80	0.05
143	北棟	C2	自然石玉石	50.4	34.8	17.1	19.90	19.86	0.04
144	北棟	C2	自然石玉石	50.6	37.2	19.8	19.89	19.84	0.05
145	北棟	C2	自然石玉石	40.3	24.8	-	19.87	19.85	0.02
146	北棟	C2	自然石玉石	54.0	38.0	17.4	19.87	19.79	0.08
147	北棟	C2	自然石玉石	39.6	37.1	-	19.92	19.88	0.04
148	北棟	D2	自然石玉石	42.4	39.0	25.2	19.89	19.85	0.04
149	北棟	D2	自然石玉石	47.6	31.0	19.6	19.87	19.83	0.04
150	北棟	D2	自然石玉石	48.2	25.2	16.8	19.92	19.86	0.06
151	北棟	D2	自然石玉石	40.8	37.4	25.8	19.88	19.87	0.01
152	北棟	D2	自然石玉石	47.6	30.8	27.9	19.89	19.86	0.03
153	北棟	D2	自然石玉石	52.4	29.6	16.0	19.92	19.87	0.05
154	中央棟	D2	コンクリート基礎B	16.0	25.0	50.0	19.93	19.83	0.10
155	北棟	D2	自然石玉石	42.2	33.6	23.4	19.89	19.88	0.01
156	北棟	D2	自然石玉石	53.2	35.0	24.3	19.90	19.89	0.01
157	北棟	D1	自然石玉石	42.8	38.6	-	19.89	19.86	0.03
158	北棟	D1	自然石玉石	63.8	41.2	23.0	19.94	19.83	0.11
159	北棟	D1	自然石玉石	42.6	33.8	14.0	19.88	19.87	0.01
160	北棟	D1	自然石玉石	57.0	40.0	15.0	19.87	19.84	0.03
161	北棟	C1	自然石玉石	50.2	38.4	18.7	19.87	19.80	0.07
162	北棟	C1	自然石玉石	54.6	29.8	19.2	19.88	19.77	0.11
163	北棟	B1	自然石玉石	48.2	44.4	30.0	19.87	19.81	0.06
164	北棟	C1	自然石玉石	52.6	33.0	17.8	19.85	19.83	0.02
165	北棟	C1	自然石玉石	49.4	28.4	26.4	19.86	19.84	0.02
166	北棟	C1	自然石玉石	44.0	44.0	24.4	19.88	19.83	0.05
167	中央棟	D3	自然石玉石	64.1	52.4	24.9	19.86	19.74	0.12
168	北棟	B2	コンクリート基礎C	13.0	13.0	75.0	19.79	19.72	0.07
169	中央棟	B3	コンクリート基礎A	16.0	25.0	70.0	19.92	19.72	0.20
170	南棟	C4	コンクリート基礎A	16.0	25.0	70.0	19.92	19.74	0.18
171	北棟	B2	コンクリート基礎C	13.0	13.0	75.0	19.83	19.78	0.05
172	北棟	B1	自然石玉石	57.8	39.6	29.0	19.81	19.76	0.05
173	北棟	C1	自然石玉石	50.2	36.6	13.0	19.89	19.82	0.07
174	北棟	D1	自然石玉石	55.0	43.2	13.6	19.91	19.85	0.06
175	北棟	D1	自然石玉石	63.0	38.2	13.6	19.94	19.79	0.15
176	北棟	D1	自然石玉石	43.0	35.2	17.6	19.92	19.88	0.04
177	北棟	D1	コンクリート破片	42.6	21.0	8.0	19.85	19.81	0.04
178	北棟	D1	自然石玉石	52.8	34.8	12.6	19.89	19.85	0.04
179	北棟	D2	自然石玉石	40.7	37.2	-	19.90	19.87	0.03
180	北棟	D2	自然石玉石	55.6	30.2	21.2	19.90	19.85	0.05
181	北棟	D2	自然石玉石	50.6	40.4	21.2	19.90	19.85	0.05
182	北棟	D2	自然石玉石	40.0	57.0	19.0	19.89	19.85	0.04
183	北棟	D2	自然石玉石	48.0	30.0	19.2	19.88	19.85	0.03
184	北棟	D2	自然石玉石	52.0	40.0	18.4	19.91	19.85	0.06
185	北棟	D2	自然石玉石	54.0	36.0	13.0	19.90	19.85	0.05

第1表 測量調査礎石計測一覧(3)

礎石番号	グリッド	礎石種別	礎石地業（上端）		礎石地業（下端）		深さ（cm）	礎石地業根石 円礫（cm）	上部礫範囲（cm）	備 考
			長軸（cm）	短軸（cm）	長軸（cm）	短軸（cm）				
118	D3	自然石玉石	67.4	53.2	48.0	39.8	37.0	～10cm	95.0*73.6	柱穴1
135	C3	自然石玉石	102.6	85.2	50.6	33.6	37.4	～10cm	90.0*(100.0)	礎石補強
137	B2	自然石玉石	85.4	(65.8)	(49.6)	60.4	42.0	～10cm	(100.0)*(100.0)	地業拡幅
138	B2	自然石玉石	58.6	(42.8)	48.0	26.6	43.2	～10cm	114.8*(100.0)	
139	B2	自然石玉石	87.0	(59.6)	74.6	36.0	39.4	～10cm	107.4*(100.0)	地業拡幅
140	C2	自然石玉石	(55.2)	52.2	43.4	42.0	30.0	～8cm	117*(66.7)	
141	C2	自然石玉石	102.6	82.2	77.8	30.0	29.0	～5cm	112.8*99.6	地業拡幅、柱穴2
142	C2	自然石玉石	69.6	(53.2)	32.2	28.6	40.8	～5cm	86.4*75.2	
143	C2	自然石玉石	(65.2)	(39.6)	-	-	-	～10cm	-	
144	C2	自然石玉石	(100.0)	(33.6)	-	-	-	～10cm	-	
146	C2	自然石玉石	62.0	(50.4)	53.6	41.6	41.8	～5cm	98*81.2	
148	D2	自然石玉石	62.0	59.4	45.8	43.6	47.8	～10cm	99.6*83.0	
149	D2	自然石玉石	55.2	(50.0)	40.8	33.4	35.2	～10cm	100.2*(100.0)	
150	D2	自然石玉石	89.4	(33.8)	-	-	-	～10cm	-	
151	D2	自然石玉石	83.0	70.8	-	-	-	～10cm	-	
152	D2	自然石玉石	80.6	(62.6)	-	-	-	～10cm	-	
153	D2	自然石玉石	64.6	(59.4)	38.0	33.2	35.6	～10cm	(93.6)*(77.8)	
155	D2	自然石玉石	(83.2)	(79.4)	-	-	-	～10cm	-	
156	D2	自然石玉石	(92.4)	(82.4)	-	-	-	～10cm	-	
158	D1	自然石玉石	71.8	(51.4)	54.0	33.6	50.6	～20cm	164.2*(100)	
159	D1	自然石玉石	80.0	(46.8)	42.2	33.4	45.0	～20cm		
160	D1	自然石玉石	54.2	(50.0)	37.8	31.2	40.8	～5cm	84.4*(85.2)	
161	C1	自然石玉石	87.4	(85.0)	-	-	-	～10cm	-	
162	C1	自然石玉石	94.2	(84.2)	-	-	-	～10cm	-	
163	B1	自然石玉石	72.8	(50.8)	55.2	35.0	38.2	～10cm	104.2*(100.0)	
164	C1	自然石玉石	64.4	(59.8)	48.6	47.8	38.0	～6cm	84.0*(100)	
165	C1	自然石玉石	(79.6)	59.8	53.4	45.0	44.6	～6cm	88.0*75.2	
166	C1	自然石玉石	70.6	(48.6)	49.8	32.8	48.4	～5cm	77.4*70.4	
168	B2	コンクリート基礎C	82.0	48.4	69.6	40.0	61.2	～10cm	(100.0)*(100.0)	地業拡幅
171	B2	コンクリート基礎C	87.0	(59.6)	74.6	36.0	39.4	～10cm	107.4*(100.0)	地業拡幅
172	B1	自然石玉石	67.2	(45.6)	57.2	33.8	43.2	～10cm	(100.0)*(100.0)	
173	C1	自然石玉石	(76.2)	(71.0)	38.8	26.2	40.0	～20cm	(100.0)*(100.0)	
174	D1	自然石玉石	63.2	(62.0)	50.2	43.8	39.8	～8cm	87.8*(100.0)	
175	D1	自然石玉石	(74.2)	62.8	55.6	43.6	38.2	～8cm	82.0*64.8	
176	D1	自然石玉石	70.2	69.6	46.2	38.4	43.0	～8cm	-	
177	D1	コンクリート	(95.0)	(85.4)	(63.6)	(50.0)	37.6	～10cm	(100.0)*(66.0)	礎石補強
178	D1	自然石玉石	85.8	(85.8)	58.2	(50.0)	42.6	～10cm	74.6*(95.6)	
180	D2	自然石玉石	84.4	(73.6)	50.6	49.0	43.2	～10cm	220.6*52.2	
181	D2	自然石玉石	80.4	(79.8)	53.6	39.4	44.6	～10cm	197.0*(100.0)	
182	D2	自然石玉石	69.8	60.4	51.4	49.2	41.2	～10cm	-	
183	D2	自然石玉石	(82.8)	69.8	46.2	37.0	55.0	～8cm	197.0*(100.0)	
184	D2	自然石玉石	(57.4)	55.6	74.2	34.0	43.8	～8cm	87*(91.4)	
185	D2	自然石玉石	72.4	(53.8)	55.8	43.8	39.6	～8cm	(21.2)*(100.0)	柱穴3
186	C1	自然石玉石	95.6	84.0	70.2	67.6	25.0	～15cm	-	
187	C1	自然石玉石	-	-	-	-	-	-	(67.6)*(11.8)	

第2表 北棟礎石地業計測一覧

種別	番号	地点	検出層位	規 模			備 考
				上端(cm)	下端(cm)	深さ(cm)	
柱穴	1	D3	①層地業底部	14.0	-	82.0	礎石118の地業内
柱穴	2	C2	1層下面	14.0	4.0	16.0	礎石141の地業内
柱穴	3	D2	1層下面	5.0	2.0	44.0	礎石185の地業内
柱穴	4	D2	5層	11.0	5.0	25.0	
柱穴	5	D2	5層	9.6	4.6	8.0	
柱穴	6	C2	5層	8.0	4.0	25.0	
柱穴	7	B1	9層	84.1	80.0	63.0	
			9層	14.0	-	56.2	柱材
			9層	22.3	-	60.0	柱痕
柱穴	8	D0	9層	65.6	39.2	23.6	
			9層	16.0	10.0	45.6	柱痕
柱穴	9	E1	11層	13.8	8.0	82.4	
柱穴	10	E1	11層	13.8	8.0	75.6	
柱穴	11	E1	11層	54.6	20.0	47.6	
種別	番号	地点	検出層位	規 模			備 考
				幅(cm)	長さ(cm)	深さ(cm)	
溝跡	1	D2	5層	6.4~14.3	291.0	3.0	
種別	番号	地点	検出層位	規 模			備 考
				上端(cm)	下端(cm)	深さ(cm)	
土坑	1	B1	8層上面	48.2	27.6	40.0	煉瓦出土
土坑	2	B2	6層上面	32.4	19.6	10.0	
種別	番号	地点	検出層位	規 模			備 考
				長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	
旧便槽跡	1	C1	-	160.0	130.0	90.0	
種別	番号	地点	検出層位	規 模			備 考
				長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	
集石	1	D1-2	1層下面	232.0	10.0~50.0	8.0	~20cm円礫
集石	2	D-E1	1層下面	205.0	35.0	4.0	~20cm円礫
集石	3	D1	1層下面	97.5	20.0	5.0	~20cm円礫
集石	4	B1	1層下面	60.0	30.0	4.5	~20cm円礫
集石	5	B1	1層下面	184.0	17.0~34.6	5.2	~20cm円礫
集石	6	B1	1層下面	74.2	32.2	4.8	~20cm円礫

第3表 北棟検出遺構一覧

礎石番号	グリッド	礎石種別	礎石地業（上端）		礎石地業（下端）		深さ（cm）	礎石地業根石			備考
			長軸（cm）	短軸（cm）	長軸（cm）	短軸（cm）		切石	円礫	コンクリート	
44	D3	コンクリート基礎B	69.8	63.1	37.8	34.6	66.6	○	○		
92	B4	コンクリート基礎A	55.4	45.0	41.8	40.0	53.4	○	○		
99	C4	自然石玉石	67.2	53.2	40.6	39.8	22.4	○	○		
101	D4	自然石玉石	69.6	67.8	58.0	54.0	49.0	○	○		柱穴13
104	D4	自然石玉石	(100.0)	65.2	-	-	-				
			65.2	59.6	55.2	44.6	35.2	○	○		西側
			50.6	(42.4)	42.8	40.2	60.4	○	○	○	東側
105	D3	コンクリート基礎B	(95.2)	57.0	-	-	-				
			52.0	44.0	34.4	30.7	44.0	○	○	○	西側
			56.0	57.2	46.4	40.0	61.0	○	○	○	東側
106	D3	自然石玉石	59.4	54.2	35.6	34.8	40.2	○	○		
107	D3	自然石玉石	65.4	54.8	34.6	28.0	39.8	○	○		
108	D3	自然石玉石	59.8	50.6	41.6	33.2	42.8	○	○		柱穴12
109	D3	コンクリート基礎B	103.4	(97.8)	37.2	32.6	86.8	○	○		
113	C3	自然石玉石	62.8	63.6	46.8	46.2	41.8	○	○		
114	D3	自然石玉石	69.6	-	-	-	-	○	○		
115	D3	自然石玉石	(50.4)	(40.6)	-	-	-				北棟同様
116	D3	自然石玉石	(58.2)	54.8	-	-	-				北棟同様
117	D3	自然石玉石	-	-	-	-	-				
119	C3	コンクリートブロック	-	-	-	-	-				
120	C3	自然石玉石	65.2	59.0	40.0	39.6	16.6	○	○		
121	C3	コンクリートブロック	-	-	-	-	-				柱穴14
122	C3	自然石玉石	76.6	62.6	50.0	44.0	38.1	○	○		
125	B3	コンクリート基礎A	(65.4)	(55.8)	34.0	29.2	(64.2)	○	○		
128	C3	自然石玉石	80.0	72.2	46.2	43.2	37.2	○	○		
130	B3	コンクリート基礎A	73.6	50.4	44.8	39.6	44.8	○	○		
131	B3	コンクリート基礎A	72.6	59.8	44.6	40.4	45.2	○	○		
132	C3	切石	-	-	-	-	-	○	○		
133	C3	自然石玉石	-	-	-	-	-	○	○		
134	C3	自然石玉石	-	-	-	-	-	○	○		
136	B2	自然石玉石	-	-	-	-	-				
154	D2	コンクリート基礎B	79.6	71.8	35.8	33.4	61.6	○	○	○	
167	D3	自然石玉石	86.2	-	-	-	-	○	○	○	
169	B3	コンクリート基礎A	(54.8)	(42.6)	33.6	27.2	47.2	○	○		

第4表 中央棟礎石地業計測一覧

種別	番号	地点	検出層位	規 模			備考
				上端(cm)	下端(cm)	深さ(cm)	
柱穴	12	D3	①層地業底部	10.0	-	20.0	礎石108の地業内
柱穴	13	D4	①層地業底部	12.0	-	43.0	礎石101の地業内
柱穴	14	C3	3層上面	17.4	12.2	35.0	礎石121下部
柱穴	15	C3	3層上面	17.0	12.0	20.0	
柱穴	16	C3	3層上面	32.0	20.0	21.0	
柱穴	17	C3	3層上面	16.0	10.8	48.0	
柱穴	18	C4	3層上面	(20.0)	(12.0)	(60.0)	
柱穴	19	D3	3層上面	(42.8)	28.0	55.2	
柱穴	20	D3	3層上面	(18.0)	12.4	27.8	
柱穴	21	D3	3層上面	17.0	10.6	31.2	
柱穴	22	D4	3層上面	28.6	12.6	29.8	
柱穴	23	D4	3層上面	14.0	-	50.0	土坑4底面
種別	番号	地点	検出層位	規 模			備考
				上端(cm)	下端(cm)	深さ(cm)	
土坑	3	C3	2層上面	85.2	19.2	20.0	
土坑	4	D4	2層上面	73.6	46.2	23.6	
土坑	5	C4	3層上面	(32.8)	-	(8.0)	
土坑	6	D3	3層上面	43.6	39.8	17.0	
土坑	7	D4	3層上面	57.0	51.8	12.0	
種別	番号	地点	検出層位	規 模			備考
				長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	
集石	7	C3	3層上面	98.6	22.0~28.6	8.0	~10cmの切石

第5表 中央棟検出遺構一覧

番号	グリッド	礎石種別	礎石地業（上端）		礎石地業（下端）		深さ（cm）	礎石地業根石			備考
			長軸（cm）	短軸（cm）	長軸（cm）	短軸（cm）		切石	円礫	コンクリート	
1	B6	コンクリート基礎A	52.2	44.6	32.4	28.0	8.0	○	○		
2	B6	コンクリート基礎A	49.8	46.2	39.8	36.4	9.0	○	○		
3	B6	コンクリート基礎A	56.7	82.6	79.8	48.1	16.8	○	○	○	
4	B6	コンクリート基礎A	82.6	56.7	79.8	48.1	16.8	○	○	○	
5	C6	コンクリート基礎A	53.2	47.0	40.8	34.7	10.0	○	○	○	
6	C6	コンクリート基礎A	50.3	(46.8)	(56.4)	38.5	11.0	○	○		
7	C6	自然石玉石	64.6	63.8	37.6	33.0	46.4	○	○		
8	C6	コンクリート基礎A	92.4	62.4	70.6	56.7	47.0		○		
9	C6	切石	-	-	-	-	-		○		
10	D6	コンクリートブロック	-	-	-	-	-				11地業の上
11	D6	コンクリート基礎A	64.5	56.4	46.7	38.4	42.8	○	○	○	
12	D6	コンクリートブロック	-	-	-	-	-				11地業の上
13	D6	コンクリートブロック	30.7	26.1	-	-	10.0		○		
14	D6	自然石玉石	40.5	38.4	-	-	8.0	○	○	○	
15	D6	コンクリート基礎A	58.8	54.2	44.2	38.0	27.8	○	○	○	
16	D6	コンクリート基礎A	58.4	54.6	38.8	37.4	42.0	○	○	○	
17	D6	コンクリート基礎A	69.2	52.4	41.8	32.0	43.2	○	○	○	
18	D5	コンクリート基礎A	54.8	48.0	40.6	38.0	51.4	○	○	○	
21	D5	自然石玉石	56.4	46.8	42.4	30.9	20.0	○	○	○	
22	D5	自然石玉石	70.4	52.6	50.7	40.0	20.7	○	○	○	
23	C5	自然石玉石	-	-	-	-	-	○	○	○	
26	B6	コンクリート基礎A	24.0	23.0	-	-	19.7	○	○	○	
29	B5	コンクリート基礎A	59.6	52.0	46.4	42.1	16.0	○	○	○	
33	B5	コンクリート基礎A	23.0	23.2	-	-	20.0	○	○	○	
34	B5	自然石玉石	-	-	-	-	-	○	○	○	
35	C5	自然石玉石	-	-	-	-	-	○	○	○	
36	C5	自然石玉石	-	-	-	-	-	○	○	○	
39	C5	自然石玉石	-	-	-	-	-	○	○	○	
40	C5	自然石玉石	-	-	-	-	-	○	○	○	
41	B5	コンクリート基礎A	46.2	43.2	33.2	32.8	24.0	○	○	○	
42	B5	コンクリート基礎A	54.4	45.4	40.0	35.2	28.4	○	○	○	
43	B5	コンクリート基礎A	62.0	61.2	50.0	49.6	18.0	○	○	○	
46	D5	自然石玉石	70.4	70.3	44.8	34.5	30.3	○	○	○	
47	D5	自然石玉石	53.2	52.8	40.0	38.2	17.4	○	○	○	
49	D5	コンクリート基礎B	52.4	49.6	37.8	37.6	59.0	○	○	○	
50	E5	コンクリート基礎B	55.8	50.4	47.2	43.4	55.0	○	○	○	
51	D5	コンクリート基礎A	60.3	56.7	40.2	38.4	70.1		○		
52	D5	コンクリート基礎A	56.5	52.6	37.0	31.0	55.0	○		○	
53	D5	コンクリート基礎A	65.2	58.0	44.0	42.3	59.4		○		
54	D5	コンクリート基礎A	55.6	55.2	44.2	43.2	56.8		○	○	
55	D5	自然石玉石	66.8	62.7	46.5	40.7	10.4	○	○	○	
58	C5	自然石玉石	46.5	44.7	33.0	32.0	20.0	○		○	
61	B5	コンクリート基礎A	37.4	34.2	28.0	27.2	10.0		○		
62	B4	コンクリート基礎A	57.4	52.4	41.2	39.2	21.2		○		
63	B4	コンクリート基礎A	51.8	46.8	40.6	35.2	14.0		○		
64	B4	コンクリート基礎A	53.6	48.0	31.0	28.0	60.0/10.4	○	○		
65	B4	コンクリート基礎A	44.8	39.4	40.2	34.0	68.0	○	○	○	
66	C4	自然石玉石	56.0	52.8	40.0	39.8	22.4	○	○	○	
67	C4	自然石玉石	63.0	53.0	38.4	33.8	25.0	○	○	○	
68	C4	自然石玉石	58.0	57.2	41.4	36.0	33.8	○	○	○	
69	C4	自然石玉石	50.8	50.0	34.0	33.0	31.0	○	○	○	
70	D4	自然石玉石	61.6	58.4	38.6	32.7	19.6	○	○	○	
73	E5	コンクリート基礎B	56.8	52.0	31.6	31.4	65.2	○	○	○	
74	E4	コンクリート基礎B	88.2	85.4	50.0	44.0	51.2	○	○	○	75と繋がる
75	D4	コンクリート基礎A	54.0	(54.0)	47.0	(47.0)	67.2	○	○	○	74と繋がる
76	D4	コンクリート基礎A	64.0	59.6	44.1	37.0	70.0	○	○	○	
78	D4	コンクリート基礎A	51.4	49.6	38.8	38.0	62.6	○	○	○	
81	C4	コンクリート基礎A	54.0	53.2	46.6	37.4	60.6	○	○	○	
82	C4	コンクリート基礎A	49.6	47.4	34.0	33.6	69.2	○	○		
84	B4	コンクリート基礎A	49.6	49.2	40.0	38.0	66.7	○	○		
85	B4	コンクリート基礎A	59.7	54.0	46.8	42.6	39.4	○	○		
86	B4	コンクリート基礎A	62.8	50.4	40.0	31.2	38.6	○	○	○	
87	B4	コンクリート基礎A	60.8	51.2	49.4	42.6	34.0	○	○		
88	B4	コンクリート基礎A	52.4	50.6	26.0	26.0	33.6	○	○		

第6表 南棟礎石地業計測一覧(1)

番号	グリッド	礎石種別	地業（上端）		地業（下端）		深さ（cm）	礎石地業根石			備考
			長軸（cm）	短軸（cm）	長軸（cm）	短軸（cm）		切石	円礫	コンクリート	
170	C4	コンクリート基礎A	61.6	50.0	45.2	35.6	57.4	○	○		
188	C5	自然石玉石	-	-	-	-	-		○		
189	E5	コンクリート基礎C	34.0	33.0	18.0	18.0	20.0	○	○	○	
190	C6	コンクリートブロック	44.0	26.0	-	7.0	-	○	○	○	
191	C66	コンクリートブロック	43.8	22.0	-	10.0	-		○		

第6表 南棟礎石地業計測一覧(2)

種別	番号	地点	検出層位	規 模			備考
				上端（cm）	下端（cm）	深さ（cm）	
柱穴	24	B5 内柱穴	2層上面	48.0	36.0	34.0	
			2層上面	18.0	12.4	42.0	
柱穴	25	B4	2層上面	14.0	-	30.0	
柱穴	26	B4	2層上面	14.0	-	30.0	
柱穴	27	B5	2層上面	20.0	18.2	20.0	
柱穴	28	C4	3層上面	14.0	12.2	25.0	
柱穴	29	C4	3層上面	12.0	9.6	24.0	
柱穴	30	C4	3層上面	14.0	10.8	35.0	
柱穴	31	C4	3層上面	12.0	9.4	24.0	
柱穴	32	C4	3層上面	32.0	25.0	60.0	
柱穴	33	C4	1層下面	(26.0)	22.0	30.0	
柱穴	34	C4	1層下面	20.0	13.0	40.0	
柱穴	35	C5	1層下面	12.0	-	-	
柱穴	36	C5	①暗褐色土整地層	16.0	12.4	30.0	
柱穴	37	C5	①暗褐色土整地層	18.0	10.0	27.0	
柱穴	38	C4	1層下面	10.0	-	20.0	
柱穴	39	D5	整地層	13.0	8.6	20.0	
柱穴	40	E4	4層検出	8.0	-	10.0	
柱穴	41	E4	4層検出	8.0	-	8.0	
柱穴	42	E4	4層検出	72.0	66.0	18.0	
柱穴	43	D5	4層検出	(12.0)	(6.0)	(22.0)	
土坑	8	C4	1層下面	(62.8)	(40.7)	24.0	
土坑	9	D5	盛土	(40.0)	-	8.0	
土坑	10	D5	3層上面	40.4~65.6	-	3.0	
種別	番号	地点	検出層位	規 模			備考
				長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	
集石	7	C3	3層上面	98.6	22.0~28.6	8.0	~10cmの切石

第7表 南棟検出遺構一覧

地点	分類1	数量	分類2	数量	分類3	数量				
北棟	陶磁器類	173	陶磁器	145	湯呑碗	13				
					碗	1				
					小皿	12				
					急須	1				
					徳利	4				
					甕	1				
					不明 (小片)	113				
			陶器	28	徳利	2				
					甕	3				
					播鉢	3				
					土管	12				
					不明	8				
					金属製品	61	鉄製品	61	釘	55
									鋸	1
	釘抜き	1								
	穀物等検査機	1								
	鉄板	1								
	鉄線	1								
	蓋	1								
	ガラス製品	61		61	瓶	35				
					窓ガラス	25				
					おはじき	1				
	木製品	3		3	不明	3				
	動物遺体	656	貝類	615	アサリ	14				
					アヤボラ	3				
					アワビ	1				
					イガイ	1				
					イシカゲガイ	2				
					ウバガイ	39				
					エゾアワビ	1				
					エゾイシカゲガイ	41				
					エゾキンチャクガイ	47				
					エゾタマキガイ	9				
					エゾチヂミボラ	1				
					エゾフネガイ	3				
					エゾワスレガイ	47				
					オオイシカゲガイ	1				
					オオマルフミガイ	45				
					カキ	1				
					カワシンジュガイ	1				
					コウダカスカシガイ	1				
サラガイ					3					
チシマフジツボ					1					
ヌノメアサリ					16					
ビノスガイ					3					
ホタテガイ					13					
ユキノカサガイ					6					
不明					315					
魚骨					1	不明	1			
鳥骨					2	不明	2			
獣骨					22	ネコ	3			
						不明	19			
不明	16		16							
その他	15		15		15					

合計 969

第8表 出土遺物一覧(1)

地点	分類1	数量	分類2	数量	分類3	数量
中央棟	陶磁器類	11	陶磁器	2	碗	1
					不明(小片)	1
			陶器	9	甕	2
					播鉢	1
	金属製品	73	鉄製品	73	土管	6
					釘	64
					火箸	2
					鉄板	1
					角ネジ	1
					ボルト	1
					不明	4
					不明	4
	ガラス製品	31		31	瓶	5
					窓ガラス	26
木製品	1		1	廃材	1	
動物遺体	31	貝類	31	ウバガイ	2	
				ホタテガイ	3	
				ヤマトシジミ	1	
				不明	25	
その他	3		3	不明	3	
					合計	150

地点	分類1	数量	分類2	数量	分類3	数量
南棟	陶磁器類	82	陶磁器	27	飯茶碗	3
					飯茶碗蓋	1
					湯呑碗	3
					猪口	1
					皿	8
					酒瓶蓋	1
			陶器	44	磚子	1
					不明	9
					甕	1
					煙突	35
					土管	6
					不明	2
	炆器	4	皿	1		
			急須	2		
	不明	7	土瓶	1		
			不明	1		
			不明	1		
			不明	1		
	金属製品	296	鉄製品	281	釘	185
					落釘状	1
					船釘	3
					鉄鍋	33
					包丁	1
					鉄板	42
戸車					1	
瓶の蓋					3	
不明					12	
不明					12	
銅製品	3	急須取っ手	1			
		銅板	1			
		不明	1			
硬貨	10	不明	10			
		不明	2			
ガラス製品	46		46	瓶	13	
				窓ガラス	22	
				おはじき	3	
				部品	8	
木製品	19		19	炭	6	
				箸	1	
				廃材	12	
動物遺体	60	貝類	51	ウバガイ	7	
				カキ	1	

第8表 出土遺物一覧(2)

地点	分類1	数量	分類2	分類3	数量	
南棟	動物遺体		貝類	バイガイ	1	
				ヒメエゾボラ	4	
				ホタテガイ	20	
				ヤマトシジミ	2	
				不明	16	
			魚骨	1	不明	1
			鳥骨	3	不明	3
			獣骨	3	ネズミ	1
					ウサギ	1
					不明	1
	不明	2		2		
その他	27		27		27	
合計					530	

第8表 出土遺物一覧(3)

6. まとめ

平成 29～30 年度「保存修理工事に伴う埋蔵文化財発掘調査」により実施した史跡旧奥行臼駅通所主屋の発掘調査の結果についてまとめる。

(1) 測量調査

駅通所主屋解体後（北棟は、ジャッキアップによる半解体修理）に行った測量調査により、建物下の現況、礎石及び関連施設の詳細、その規模が明らかになった。

記録した礎石は、①自然石玉石 103 個、②切石 12 個、③コンクリート基礎 A（上 16cm 角・下 25cm 角・高さ 75cm）44 個、④コンクリート基礎 B（上 16cm 角・下 25cm 角・高さ 45cm・面取有）8 個、⑤コンクリート基礎 C（上 13cm 角・下 13cm 角・高さ、65cm・75cm）2 個、⑥コンクリートブロック 15 個、⑦コンクリート 1 個、合計 185 個である。関連施設としては、炉 2 カ所、便槽 1 カ所、煙突（煉瓦製）1 カ所、室 1 カ所、表玄関、裏玄関の整地、盛土である。

この内、礎石の大部分を①自然石玉石を設置している大正 9 年（1920）に増築された北棟は、中央棟、南棟の各礎石が混在する礎石配置と比較しても、建築当時の様相をそのまま残していることが、測量・発掘調査の両方から確認することが出来た。

(2) 発掘調査

北棟（大正 9 年（1920）増築）

調査により新たに自然石玉石が 2 個出土し礎石数は、合計 45 個となった。この内、礎石地業が有るのが 44 個である。その他、柱穴 11 基、溝跡 1 カ所、土坑 2 基、旧便槽跡 1 カ所、集石 6 カ所を検出した。

測量調査時に確認したとおり、大部分が自然石玉石の礎石を設置し礎石地業を施している。礎石地業は、礎石番号 187 を除き、形状・規模に若干の違いはあるが、地業内の根石や覆土が同様であり、同時代に施工されたものであることがわかった。地業内の根石・覆土には、貝類が含まれていることから採取地は海岸であると思われるが、礎石として使用されている自然石玉石を含め採取地を確定することが出来ない。なお、北棟南東側、中央棟に含まれる礎石番号 115、116 は、自然石玉石で礎石地業も北棟と同じものである。

自然石玉石以外のもので、建物東側の 2 カ所のコンクリート基礎 B は、大正 9 年（1920）当時の礎石地業を拡張し設置されている。また、北東側の礎石番号 177 のコンクリート礎石の下部には、自然石玉石が残存していた。いずれも礎石の沈み込みに対処した後年の補強措置が見られる。

柱穴は、地業内から検出されたものが 3 基ある。中でも柱穴 1 は、礎石番号 118 の礎石地業底面からの 85cm の深さがある。並行して南側に続く中央棟の礎石地業・土坑底面にも柱穴を伴うものが見られることから、何らかの関連性が考えられるようである。その他柱穴は、北棟外周に多く検出され、建築時の足場の柱穴等が想定される。

溝跡は、北棟の南東側の中央棟との隣接部分で検出されている。柱穴 3 を含め塀のようなものが置かれていたのであろうか。

土坑は、2 基検出されている。土坑 1 は、礎石番号 172 の礎石地業と同時期に掘り込まれており、底面から煉瓦が 2 個出土している。補強のためであろうか用途を特定することが出来ない。

旧便槽跡（板枿）は、礎石番号 187、最終的に使用されていたコンクリート便槽の下面から検出され

ている。大正9年（1920）の増築時のものと考えられるが、時期を特定するものはない。

集石は、建物外周で6カ所検出された。礎石地業の根石と同様の円礫であり、地業内に使用するものの残り、もしくは敷石ではなからうか。

中央棟（明治36年（1903）～明治43年（1910）駅通所創建時）

調査により新たに出土した礎石はない。自然石玉石18個、切石1個、コンクリート基礎A5個、コンクリート基礎B4個、コンクリートブロック2個の合計30個の礎石数である。地業が有るものは、26個である。その他、柱穴12基、土坑5基、集石1カ所を検出した。

礎石の配置は、建物内は、自然石玉石の礎石が設置され、西側外周は、コンクリート基礎A、東側の外周は、コンクリート基礎Bを設置している。（礎石番号104を除く）

礎石地業は、同じ自然石礎石でも、根石の設置方法に違いが見られた。下部に切石、上部に円礫、下部から上部まで切石と円礫を混同したパターンがある。コンクリート基礎A・Bは、礎石底部に切石を設置し、円礫、切石、コンクリート片、コンクリートが付着した円礫を根石としている。また、礎石地業がなく切石で礎石を固定するものもある。このような礎石や礎石地業の違いは、駅通所創建時から使用されている中央棟の改築などの変遷にあてはめられるものではないが、コンクリート礎石A・Bは、礎石地業の施工を見ても粗雑な点が見受けられ、施工の時期に違いがあるように思われる。

柱穴で特徴的なものは、礎石地業底面から検出された柱穴12、13、土坑底面から検出された柱穴23がある。この3基の柱穴と南北に並行するものは、北棟の柱穴1であり、柱穴1と柱穴12の間隔は、約3.6m（2間）。柱穴12、柱穴23、柱穴13のそれぞれの間隔は約0.9mある。さらに柱穴12の西側に並行する柱穴17、柱穴14との間隔は約1.8m（1間）ある。さらに柱穴12の東側約3.6m（2間）に柱穴21が検出されている。ある種の規則性が見受けられるものとして考えられる。

土坑は、5基検出されている。土坑3、4、5は、覆土に6層摩周g火山灰（Ma-g）を意図的に入れたものである。同様の土坑は南棟でも検出されている。（土坑8）

南棟（昭和16年（1941）増改築）

調査により新たに自然石玉石が1個、コンクリート基礎Cが1個、コンクリートブロック2個が検出され合計69個となった。この内、礎石地業が有るものが60個である。その他、柱穴20基、土坑3基、表玄関、裏玄関盛土を検出した。

礎石の配置は、建物内は、自然石玉石の礎石が設置され、建物外周は、コンクリート基礎A・Bを設置している。礎石地業は、自然石礎石では、地業底面に大形の切石やコンクリート片を設置し、上部まで、円礫、小形の切石、コンクリート片を根石としている。コンクリート基礎A・Bも自然石玉石同様の根石の設置方法である。南棟のB4・5・6、C5・6グリッドは、整地のため盛土されている。整地層からの礎石地業の明確な掘り込みは認められなかったが、整地後掘削し根石を入れたと思われる設置の仕方である。礎石地業の施工は、北棟と比較すると粗雑な点が見受けられる。

柱穴は20基検出され、建物内の北西側に集中している。土坑は3基検出され、土坑8は、中央棟で検出された覆土に6層摩周g火山灰（Ma-g）を意図的に入れたものと同様のものである。

表玄関、裏玄関は、測量調査時に確認されたとおり、土が硬くしめられ、裏玄関は盛土がされていた地点である。1層下面、盛土下面は、円礫、切石、コンクリート片が厚く堆積し、表玄関で最大40cm、裏玄関で16cmの厚さを測る。礎石地業の根石に使用するものと同様のものが堆積し、切石は大形のもの

が多く見られる。根石に使用しないものを玄関の地固め用に集めたものと思われる。

遺物

出土した遺物の大部分が近代の所産であるが、年代が明らかなものとして、越後産焼酎徳利の角田山麓松郷屋焼（1860～1920年代製造）が5点、五頭山麓笹岡焼（1870～1920年代製造）が2点、上野・高取系播鉢（幕末）が1点、唐津焼播鉢（19世紀製造）の1点がある。いずれも幕末～明治のものである。

参考・引用文献

別海町教育委員会 2011 『別海町奥行臼駅通所調査報告書』

別海町郷土資料館 2013 『近世のべっかい』

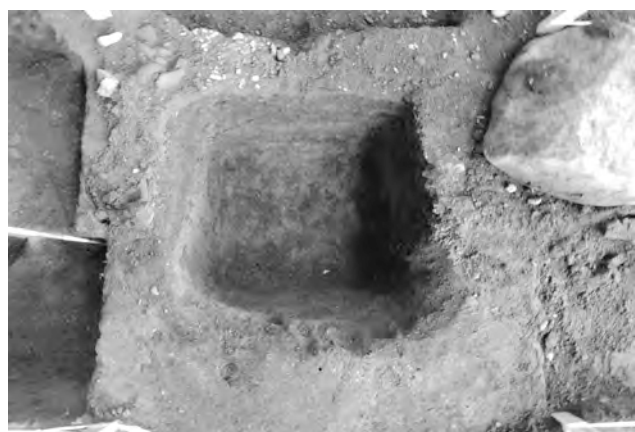
別海町教育委員会 2014 『史跡旧奥行臼駅通所保存管理計画書-平成24・25年度史跡等保存管理計画策定事業報告書』

別海町教育委員会 2015 『史跡旧奥行臼駅通所主屋保存修理工事基本設計』

写 真 图 版



1. 調査前の状況(北棟ジャッキアップ前・南から)



2. 北棟礎石地業148(西から)



3. 北棟礎石地業118(南から)



4. 北棟礎石地業135根石堆積状況(西から)



5. 北棟礎石地業135(西から)



1. 北棟旧便槽跡(北から)



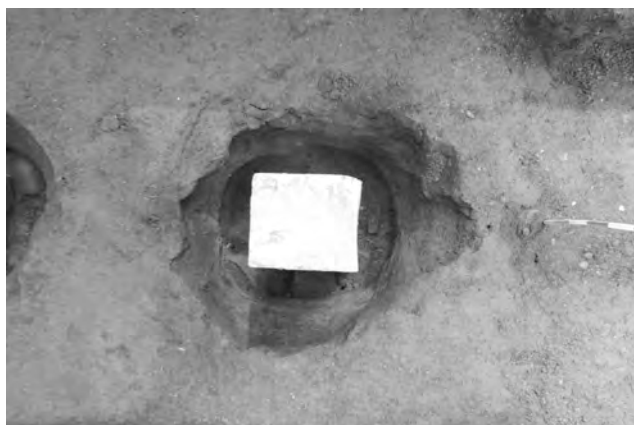
2. 中央棟礎石地業113・土坑3(西から)



3. 中央棟礎石地業113根石(西から)



4. 中央棟礎石地業108・柱穴12(東から)



5. 中央棟礎石地業130(東から)



6. 中央棟礎石地業107根石(南から)



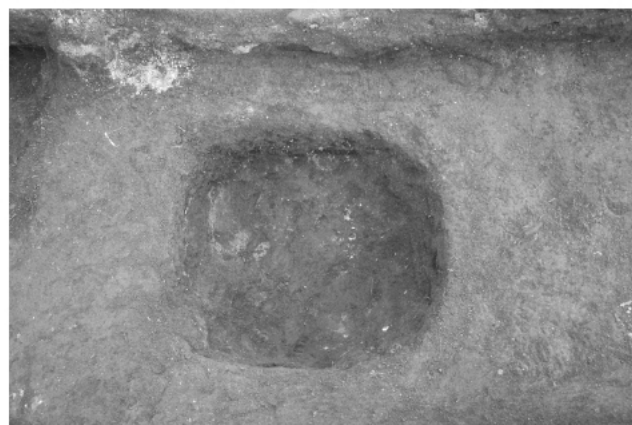
7. 中央棟土坑4、柱穴23(東から)



8. 北棟・中央棟調査状況(東から)



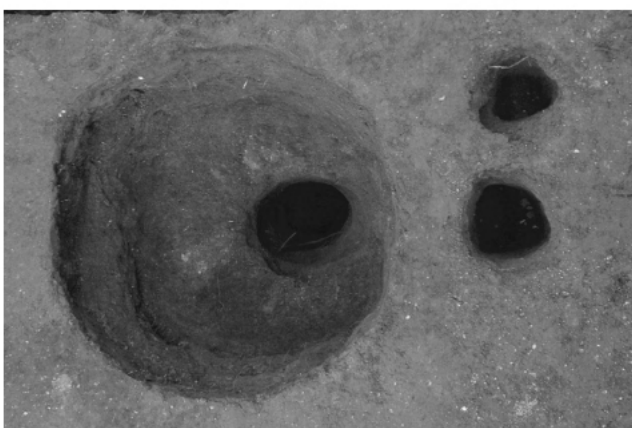
1. 南棟礎石地業55根石(東から)



2. 南棟礎石地業55(東から)



3. 南棟礎石地業78(北から)



4. 南棟柱穴24・25・26(南から)



5. 南棟表玄関(東から)



6. 南棟裏玄関(南から)



7. 調査風景北棟(南から)

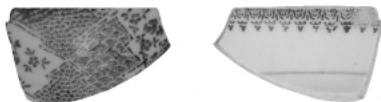


8. 調査風景南棟(北から)

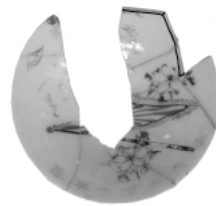
图版4 出土遺物



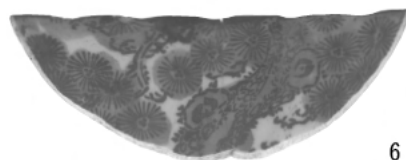
1



2



3



4



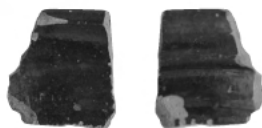
7



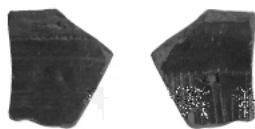
8



9



10



11



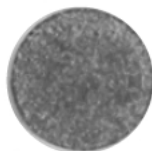
12



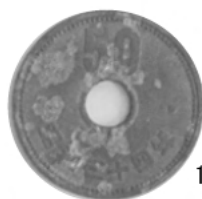
14



13



17



18



15



16

報告書抄録

ふりがな	しせききゅうおくゆきうすえきていしょおもや							
書名	史跡旧奥行臼駅通所主屋							
副書名巻次	保存修理工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	石渡一人							
編集機関	別海町教育委員会							
所在地	北海道野付郡別海町別海280番地							
発行年月日	2019.3							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号					
しせききゅうおくゆきうすえきていしょおもや 史跡旧奥行臼駅 通所主屋	ほつかいどうのつけぐんべつかいちようおく 北海道野付郡別海町奥 ゆきばんち 行15番地12	1691		43° 18' 47"	145° 14' 50"	2017.6.1 ～7.31 2018.8.20 ～31	243m ²	史跡整備
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
史跡旧奥行臼駅 通所主屋	駅通所	近代	礎石地業 柱穴 溝跡 土坑 集石 旧便槽跡	陶磁器類 金属製品 木製品 ガラス製品 動物遺体				

史跡旧奥行臼駅通所主屋

—保存修理工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

発行日 平成 31 年 3 月 29 日

発行所 北海道野付郡別海町別海常盤町 280 番地
別海町教育委員会

印刷 有限会社別海印刷

